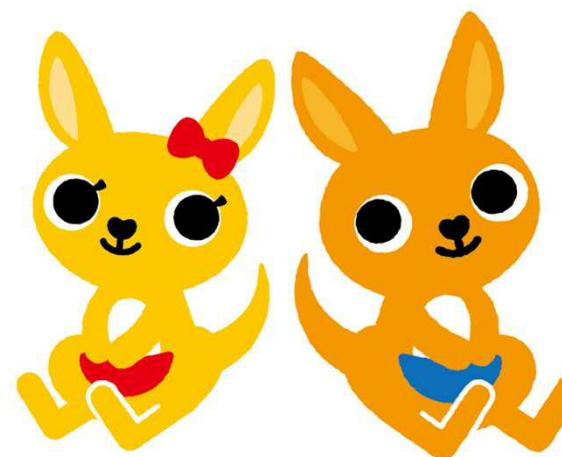


すべてを、お客さまのために。



株式会社かんぽ生命保険
個人投資家向け会社説明会

2022年 2月 28日
常務執行役 春名 貴之



1. かんぽ生命の事業の特徴

2. かんぽ生命の資産運用の概要

3. 資産運用の深化・高度化

4. ESG投資の取り組み

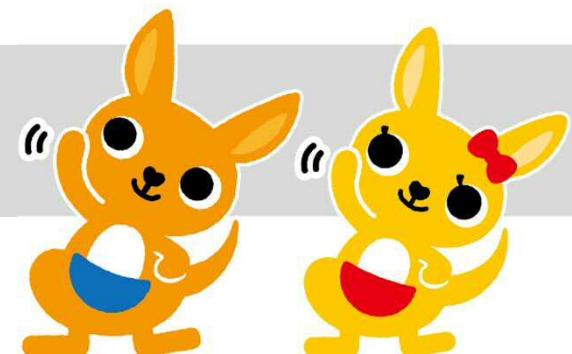


1. かんぽ生命の事業の特徴

2. かんぽ生命の資産運用の概要

3. 資産運用の深化・高度化

4. ESG投資の取り組み



1. かんぽ生命の事業の特徴

数字で見るかんぽ生命



販売チャネル
20,034局



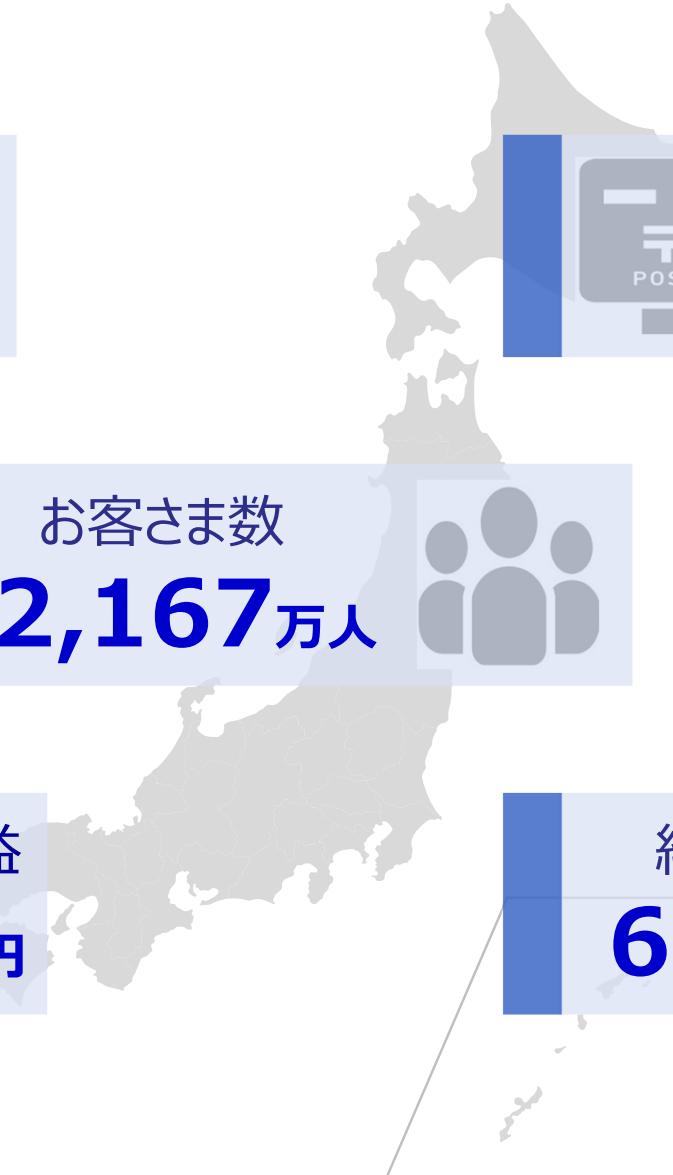
お客さま数
2,167万人



第3四半期純利益
1,195億円



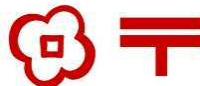
総資産
67.2兆円



※2021年12月末現在

1. かんぽ生命の事業の特徴

かんぽ生命のあゆみ



郵政創業150年

- 2021年（令和3年）郵政創業150年



- 2016年（平成28年）簡易生命保険誕生100周年

● 2015年（平成27年）株式上場



2015

● 2007年（平成19年）郵政民営化

株式会社かんぽ生命保険として、生命保険業を開始

2007

- 2003年（平成15年）日本郵政公社発足

1949

- 1949年（昭和24年）郵政省発足

1926

- 1926年（大正15年）郵便年金事業創業

1916

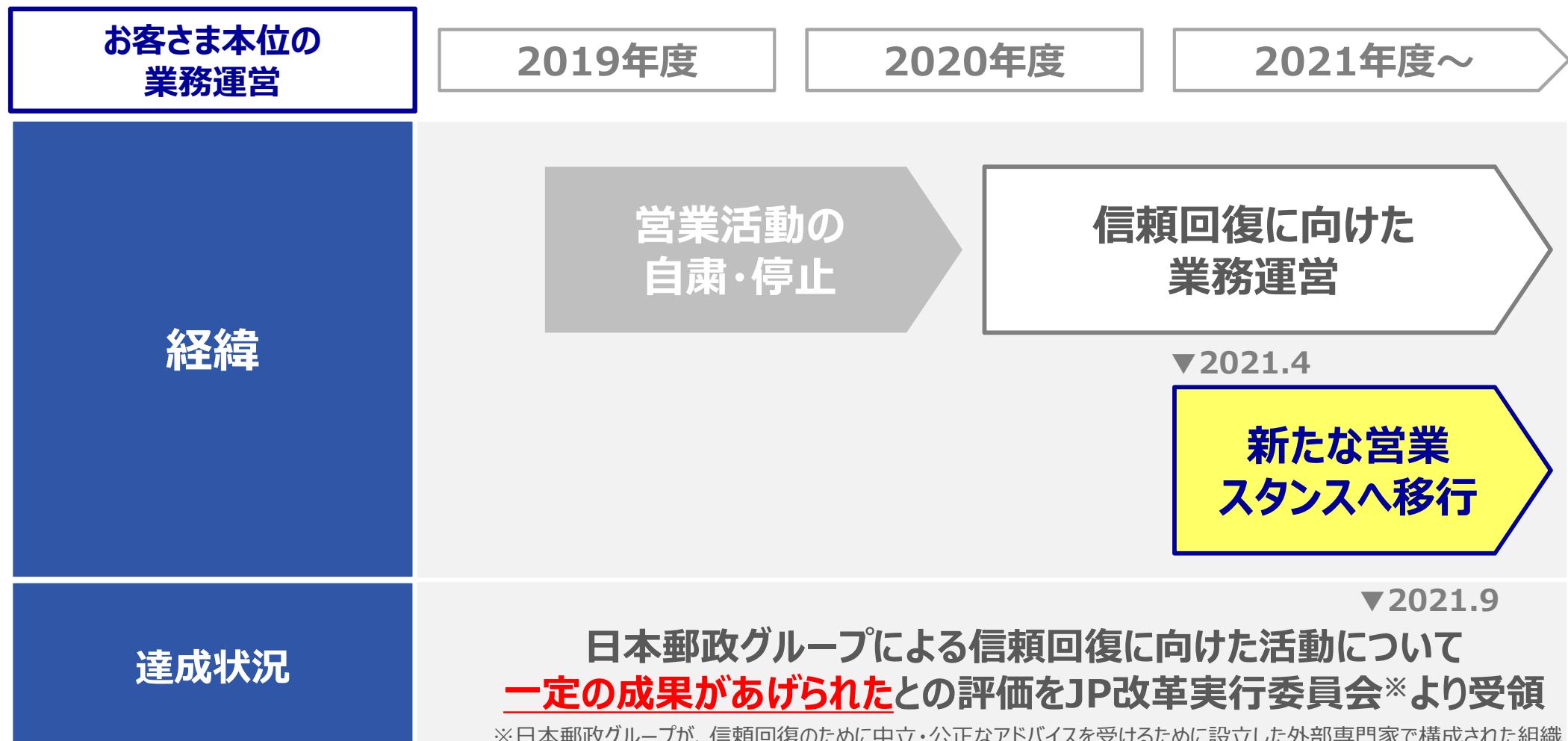
- 1916年（大正5年）簡易生命保険事業創業



1. かんぽ生命の事業の特徴

信頼回復に向けた活動

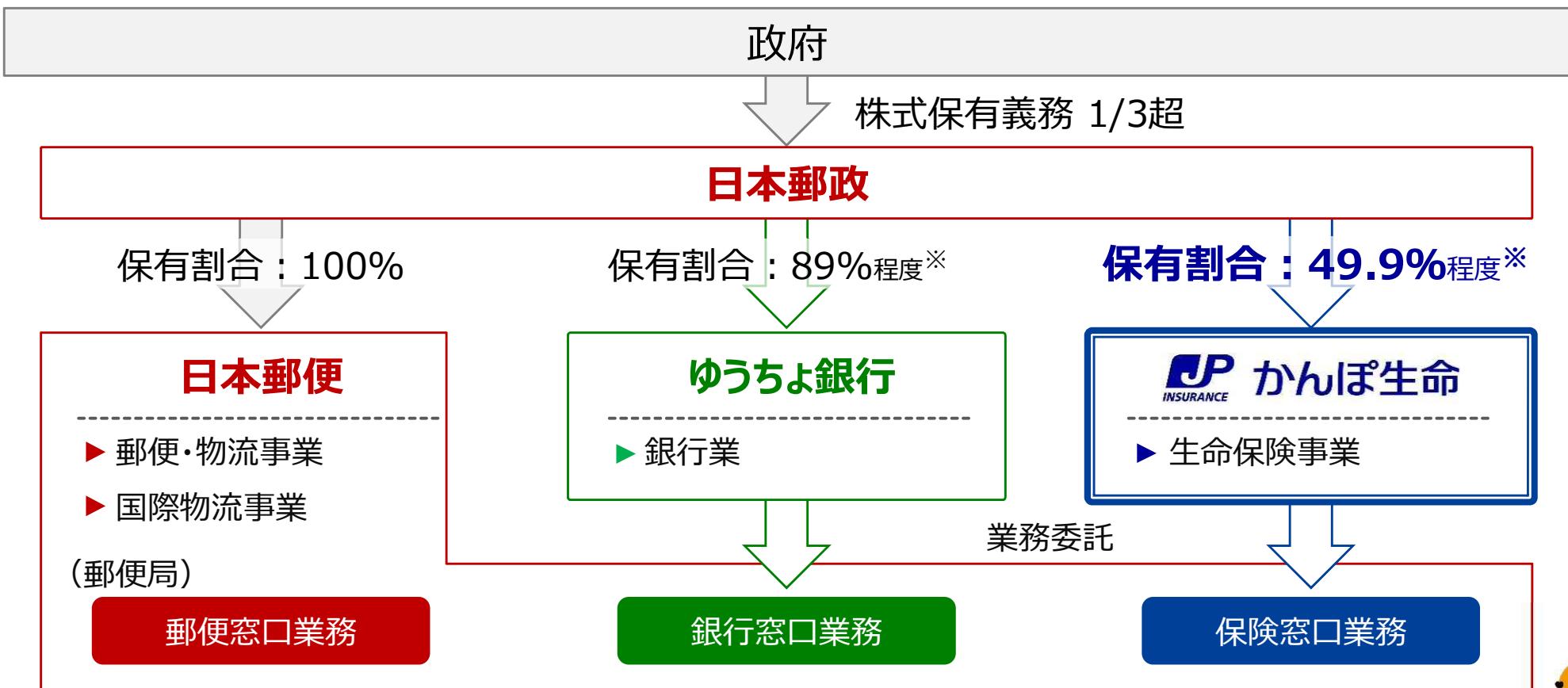
営業活動を通じてお客さまとの信頼関係を再構築



1. かんぽ生命の事業の特徴

日本郵政グループにおける位置付け

主要 3 事業のひとつとして、全国の郵便局を通じて生命保険を販売



※ 2021年12月末時点。自己株式を除く総議決権数に対する議決権の保有割合



1. かんぽ生命の事業の特徴

上乗せ規制の緩和

**日本郵政の保有割合の低下により、上乗せ規制の緩和を実現
2022年4月より、新商品の発売開始**

2007/10
郵政民営化

2015/11
株式上場

2019/4
2次売出し

**2021/5
自己株式取得等***

100%

89%

64%

49.9%



(資産運用や商品開発等) 認可制

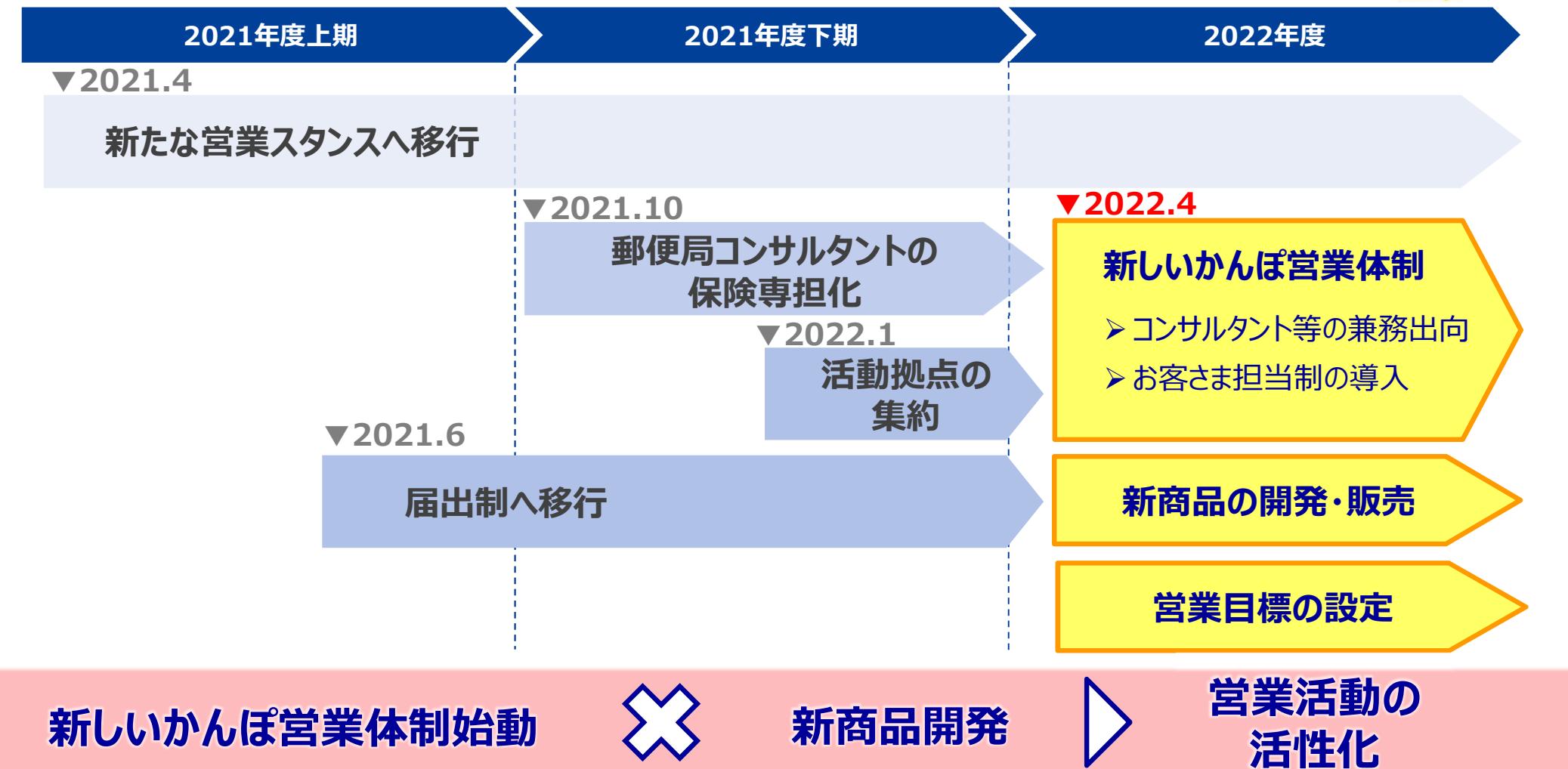
届出制

※日本郵政は、2021年6月に株式処分信託を設定し、当社株式を処分

1. かんぽ生命の事業の特徴

2022年4月からのかんぽ生命

新商品の発売開始および新しいかんぽ営業体制の始動



1. かんぽ生命の事業の特徴

国内最大級の事業規模

非常に大きな顧客基盤を持ち、事業規模を示す保有契約は国内最大級

かんぽ生命のお客さま数※1

2,167万人

総人口の約2割がご加入

総人口 12,544万人※2



保有契約年換算保険料（個人保険）

2021年9月現在

かんぽ生命
16.3%
(3.7兆円※3)

国内生保合計※3
22.7兆円

※1 お客さま数は、契約者および被保険者を合わせた人数（2021年12月末）

※2 出典：総務省統計局「人口推計」(2022年1月1日現在概算値)

※3 当社が独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構から受再している簡易生命保険契約を含む
出典：生命保険協会「生命保険事業概況」

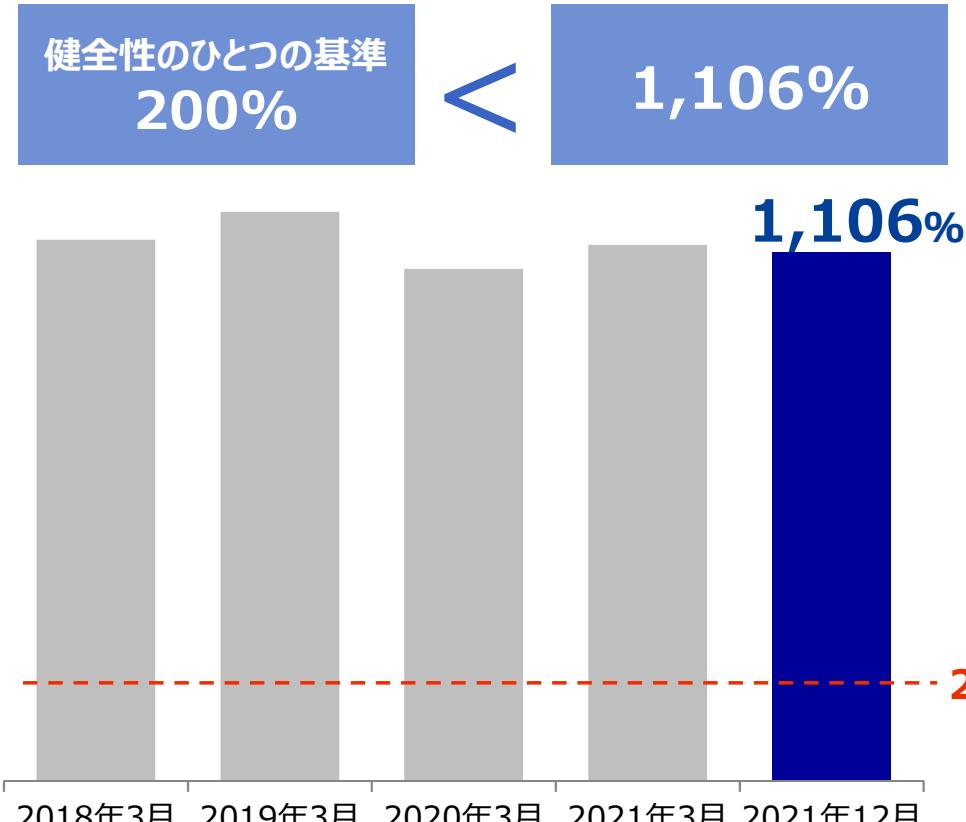
1. かんぽ生命の事業の特徴

健全な事業基盤

ソルベンシー・マージン比率、信用格付とともに高い水準を維持



連結ソルベンシー・マージン比率



信用格付の状況

2021年12月現在

スタンダードアンドプアーズ
(S&P)

A

保険財務力格付け

格付投資情報センター
(R&I)

AA-

保険金支払能力

日本格付研究所
(JCR)

AA

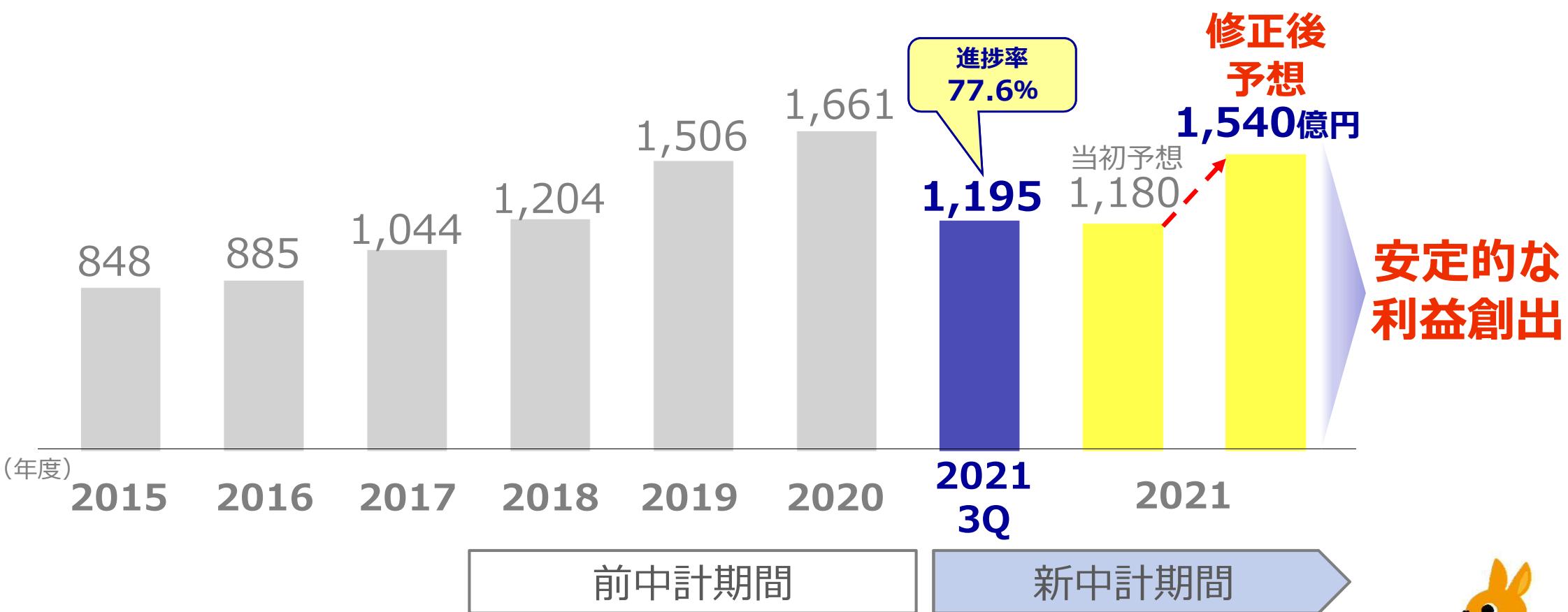
保険金支払能力格付

* 200%を下回った場合、監督当局による早期是正措置（業務改善命令等）が取られる。

1. かんぽ生命の事業の特徴

連結当期純利益の推移

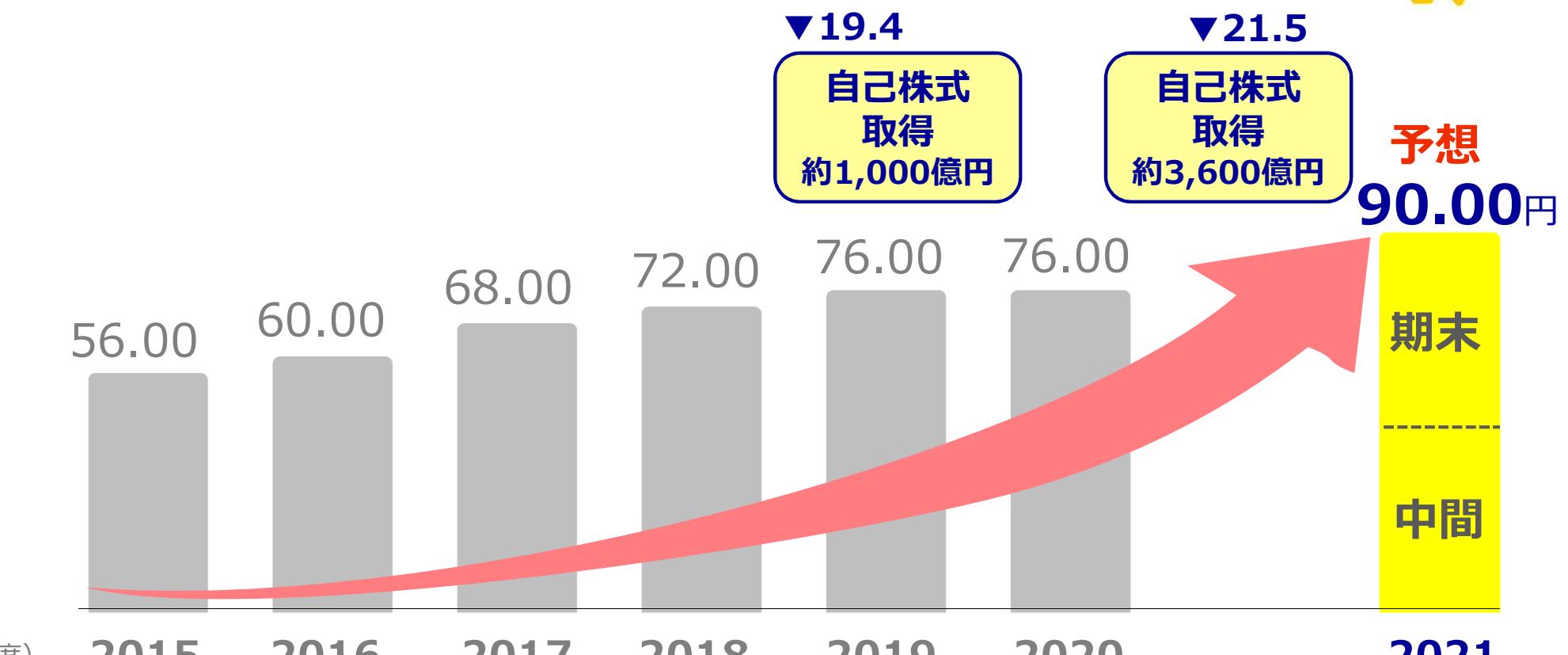
資産運用収益の増加および事業費の減少により
第3四半期の純利益は堅調に推移



1. かんぽ生命の事業の特徴

株主還元～1株あたり配当の推移～

2021年度の配当は、1株あたり90円を予定
中計期間は、原則として減配を行わず、増配を目指す

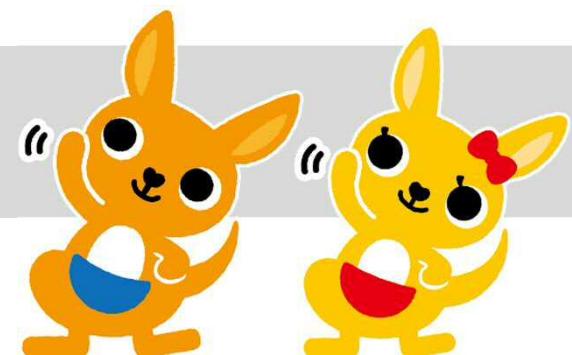


1. かんぽ生命の事業の特徴

2. かんぽ生命の資産運用の概要

3. 資産運用の深化・高度化

4. ESG投資の取り組み



2. かんぽ生命の資産運用の概要

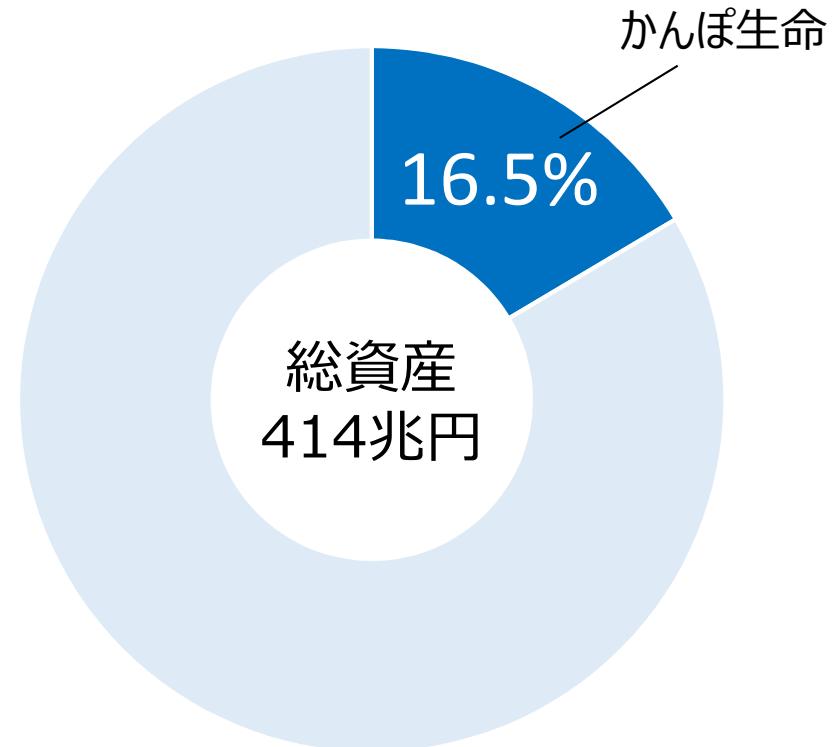
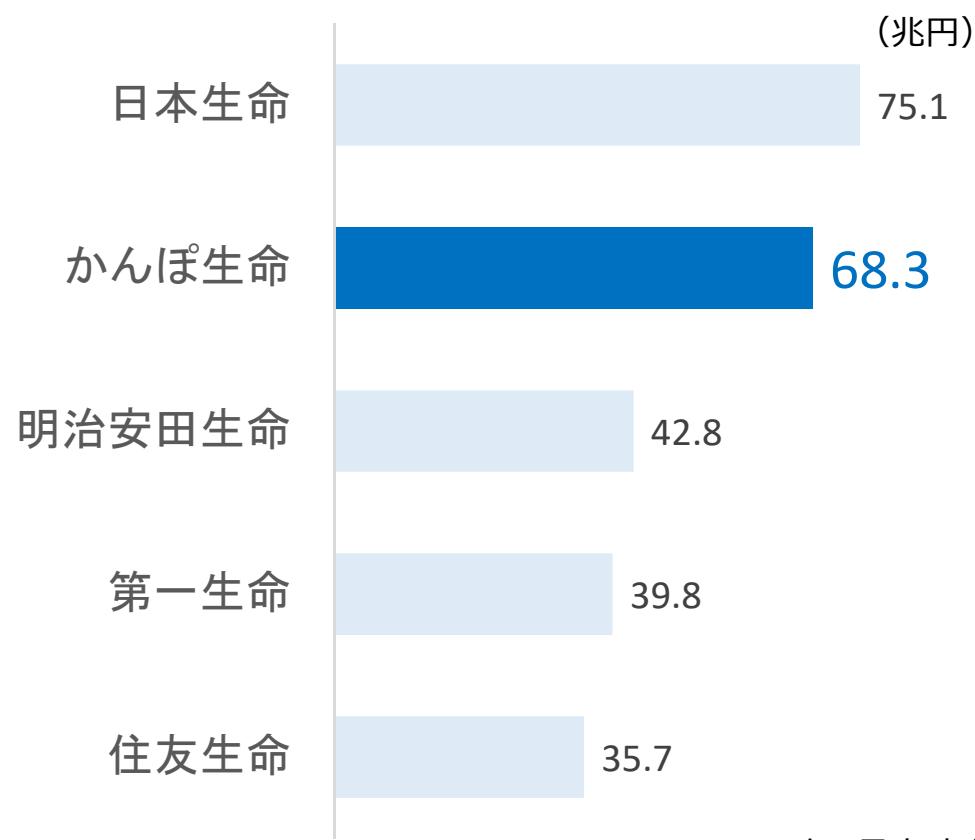
国内最大級の機関投資家

資産規模において国内生命保険会社でトップクラス



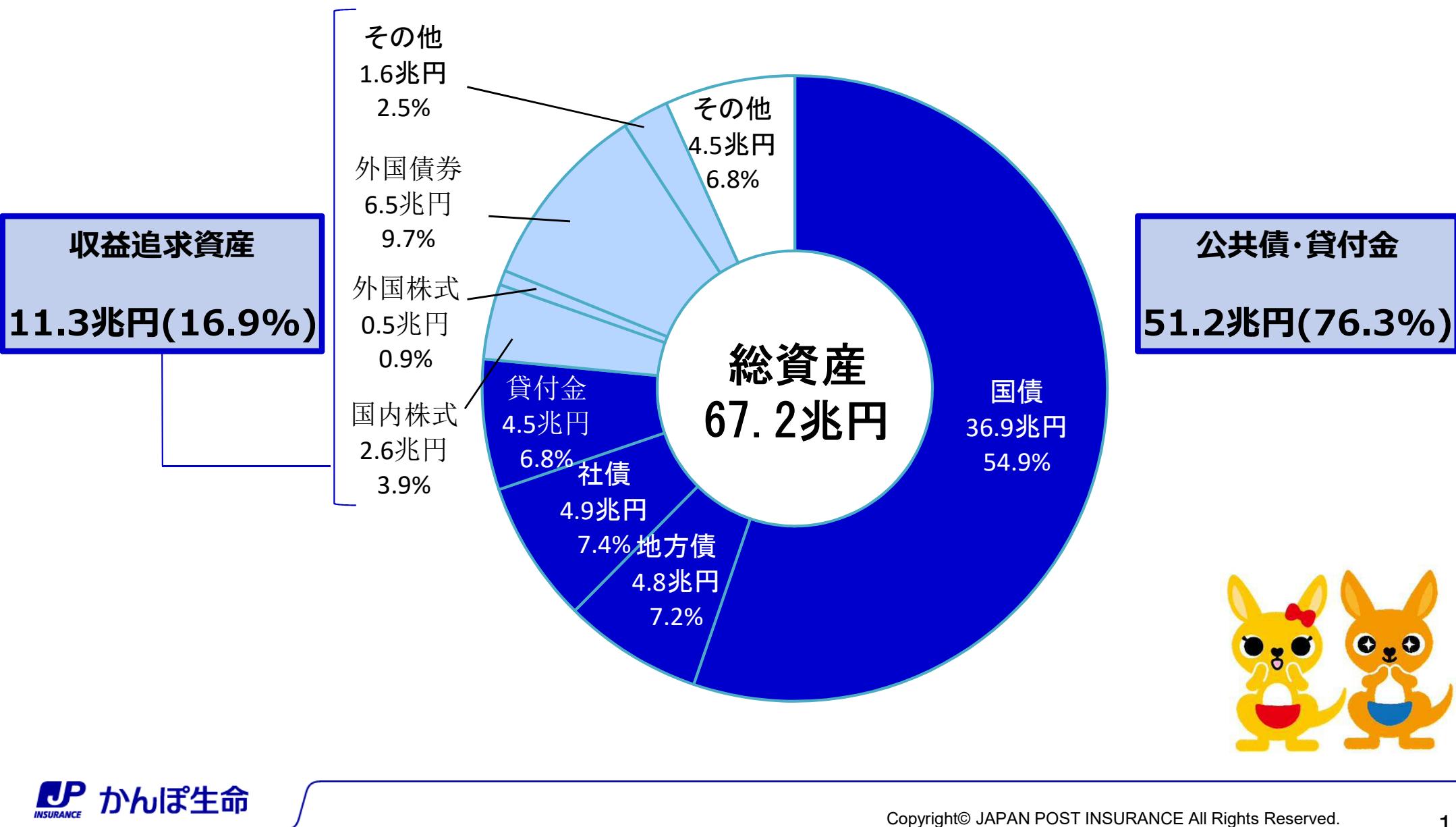
単体 総資産

国内生命保険会社全体（42社）の総資産



2. かんぽ生命の資産運用の概要

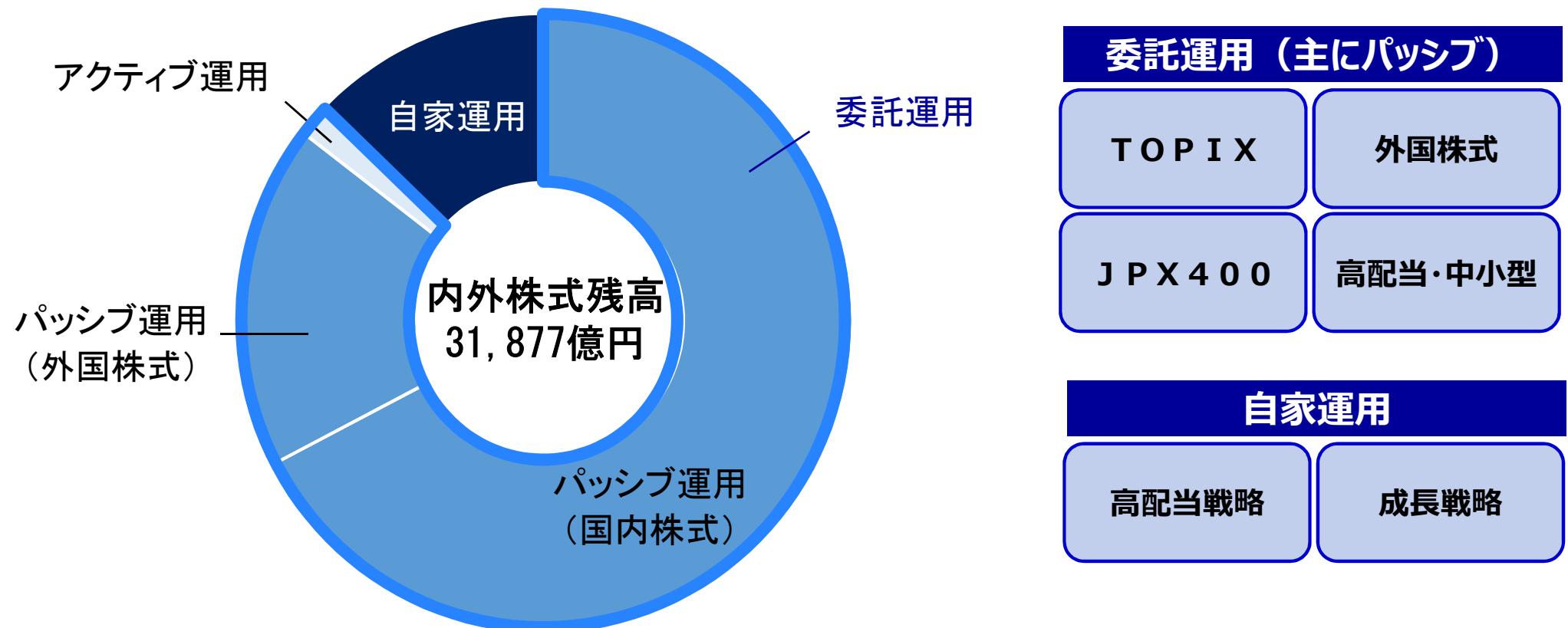
運用資産の概要(2021年12月末)



2. かんぽ生命の資産運用の概要

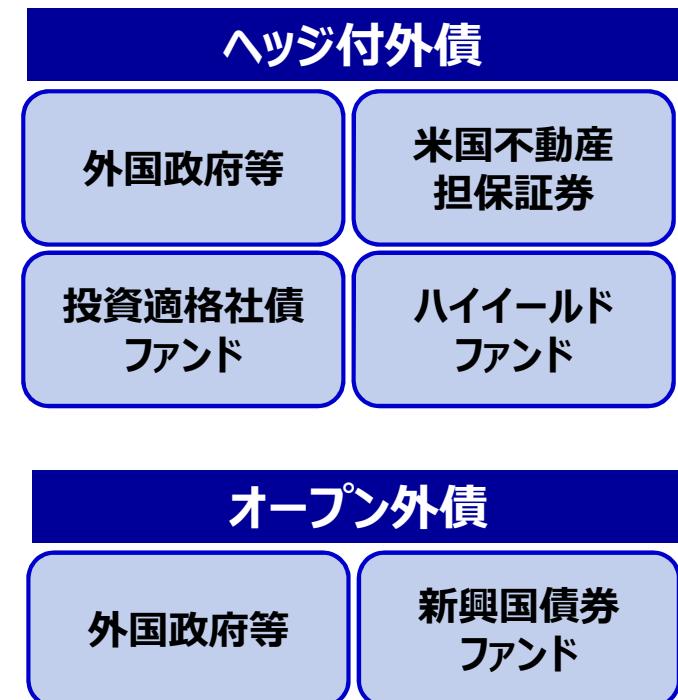
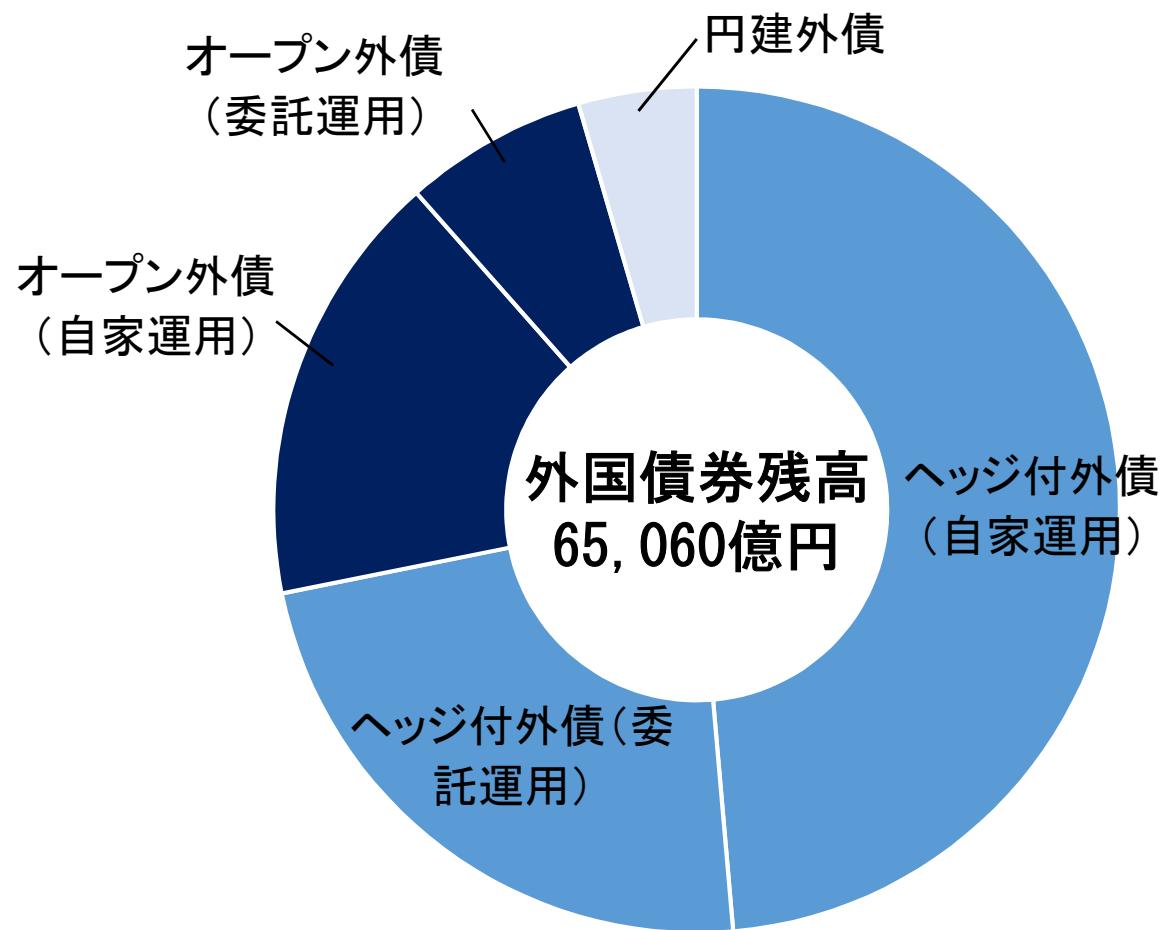
内外株式の運用について(2021年12月末)

パッシブファンドへの投資を中心とした委託運用に加え、
自家運用では企業の利益成長・配当に着目した投資を実施



外国債券の運用について(2021年12月末)

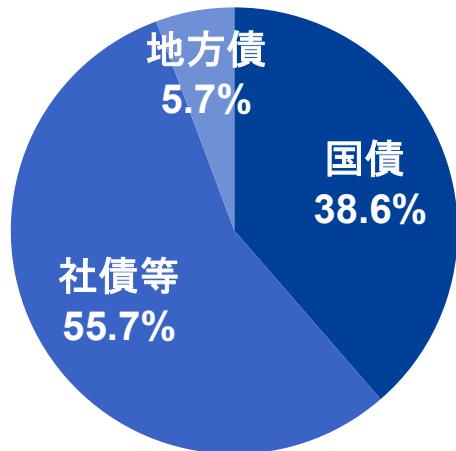
為替リスクをヘッジした外国債券が大半を占める



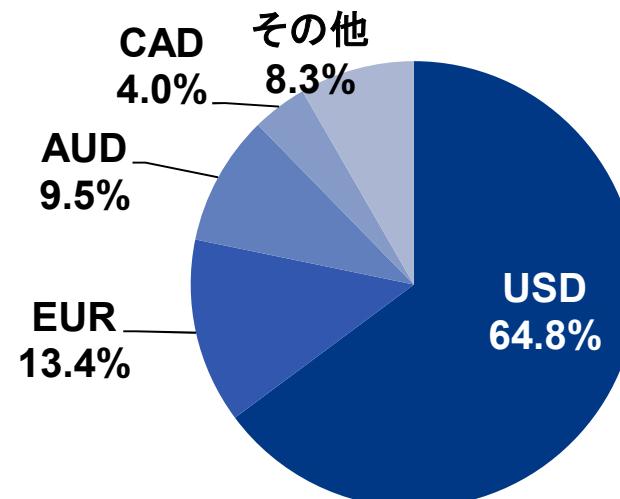
外国債券（自家運用）の投資状況

格付け別では、A格以上が約8割を占める

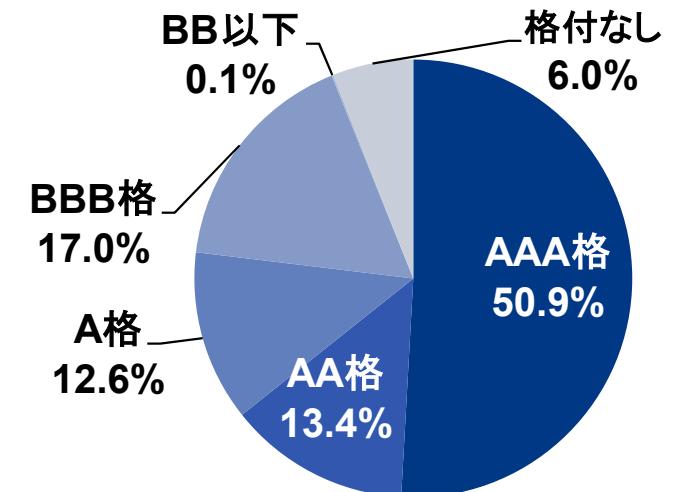
外貨建債券の内訳



通貨別エクスポージャー



格付別エクspoージャー

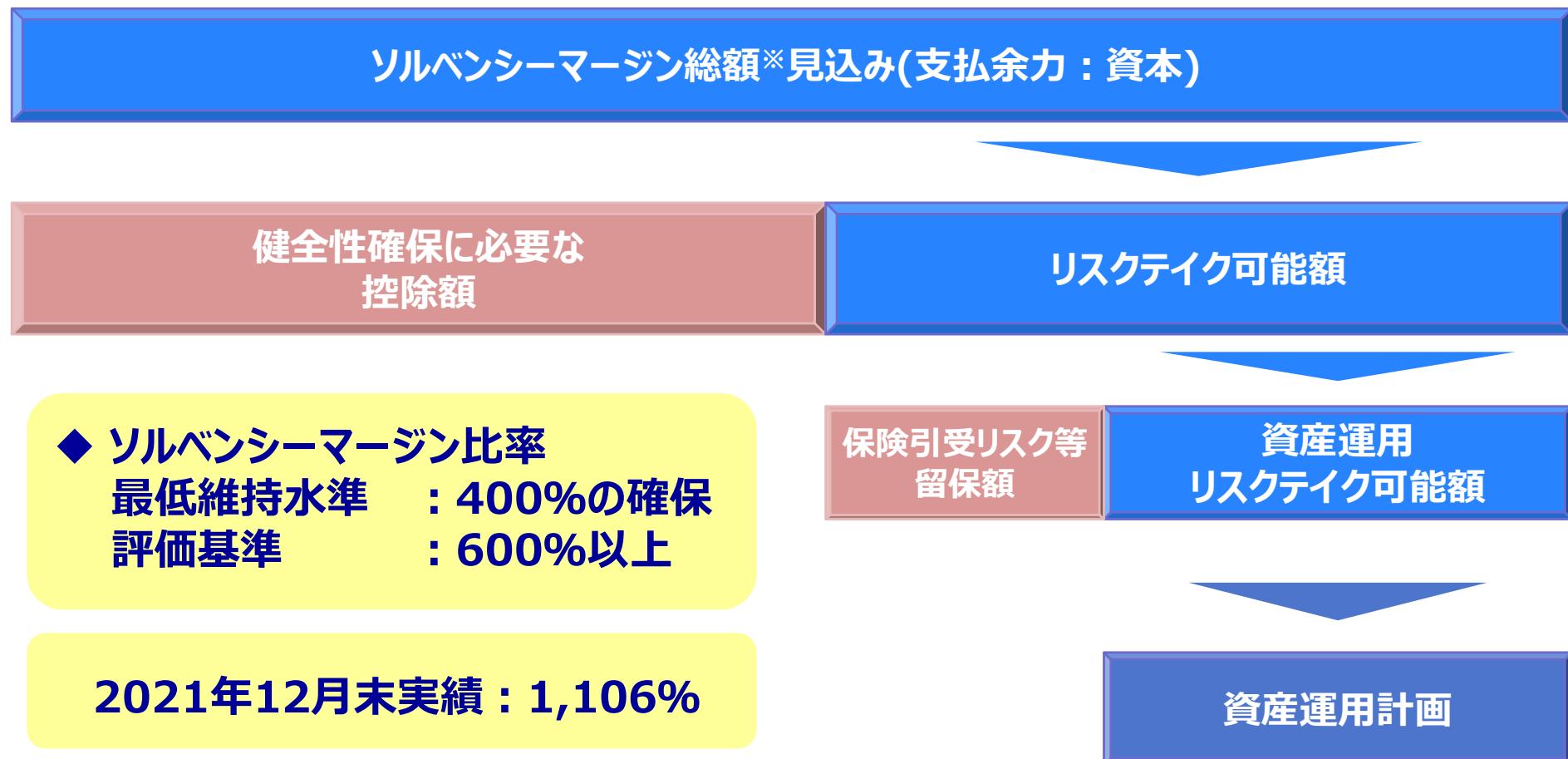


注1: 発行体が外国籍の外貨建債券のみを計上

注2: Moody'sによる発行体格付け評価を記載

資産運用計画の策定プロセス

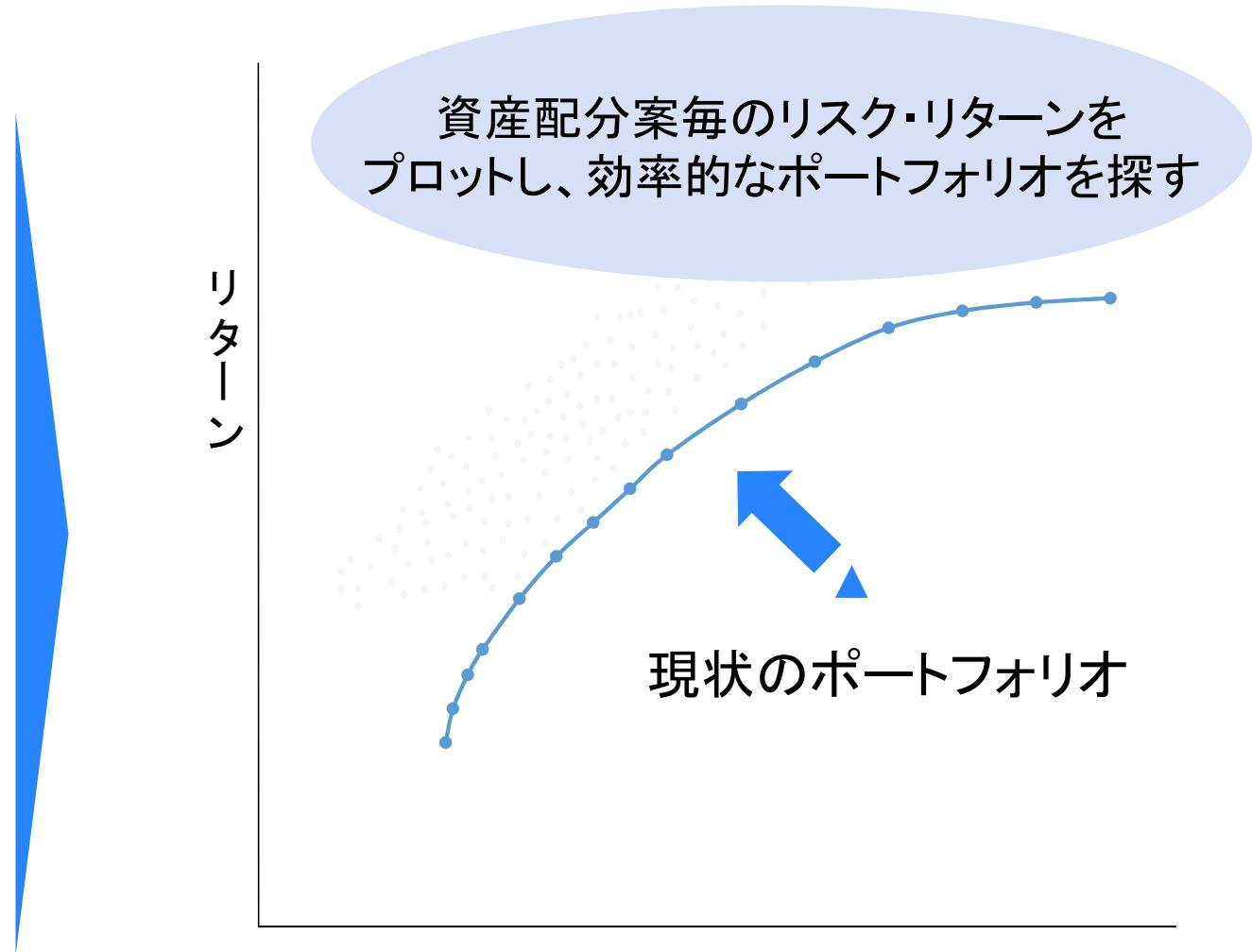
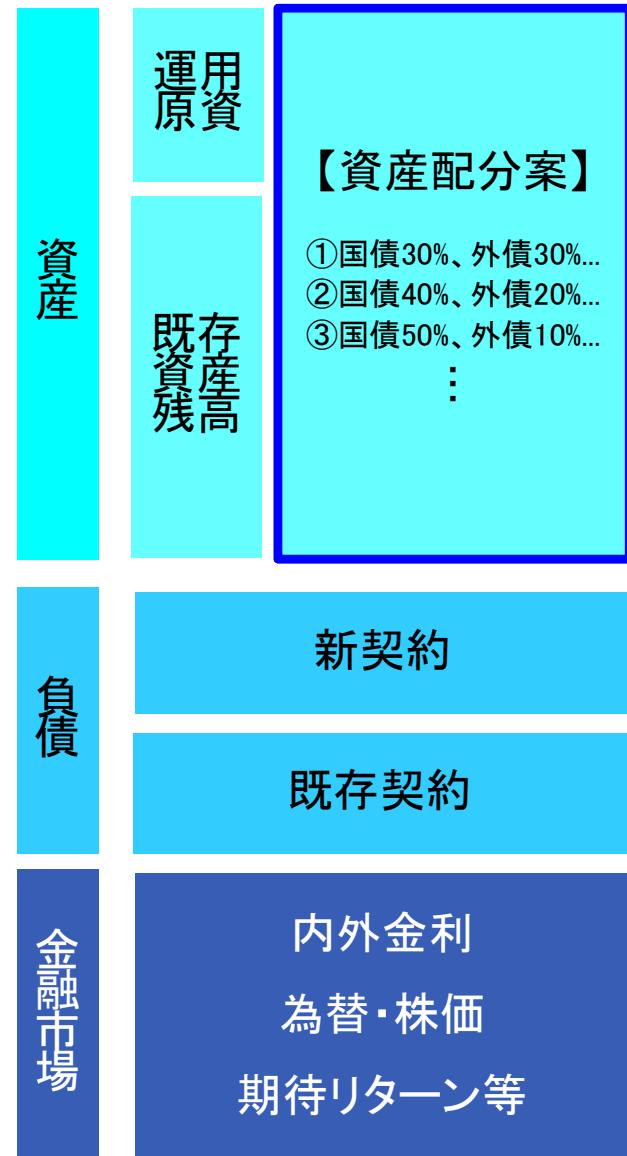
**資産運用リスクや保険引受リスクが同時に顕在化しても
財務の健全性が維持できる範囲で運用計画を策定**



※資本金等、内部留保(危険準備金・価格変動準備金)、含み損益等の合計

2. かんぽ生命の資産運用の概要

目標ポートフォリオの策定プロセス（イメージ）

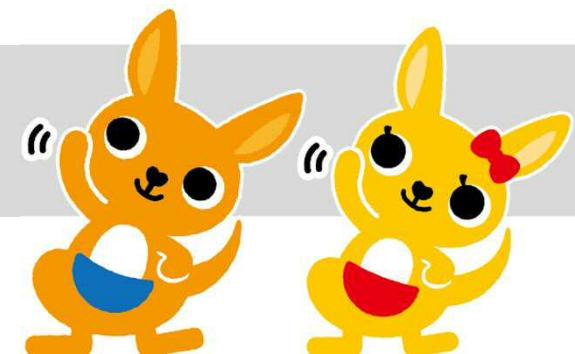


1. かんぽ生命の事業の特徴

2. かんぽ生命の資産運用の概要

3. 資産運用の深化・高度化

4. ESG投資の取り組み



3. 資産運用の深化・高度化

中期経営計画（2021-2025）における資産運用の取組み

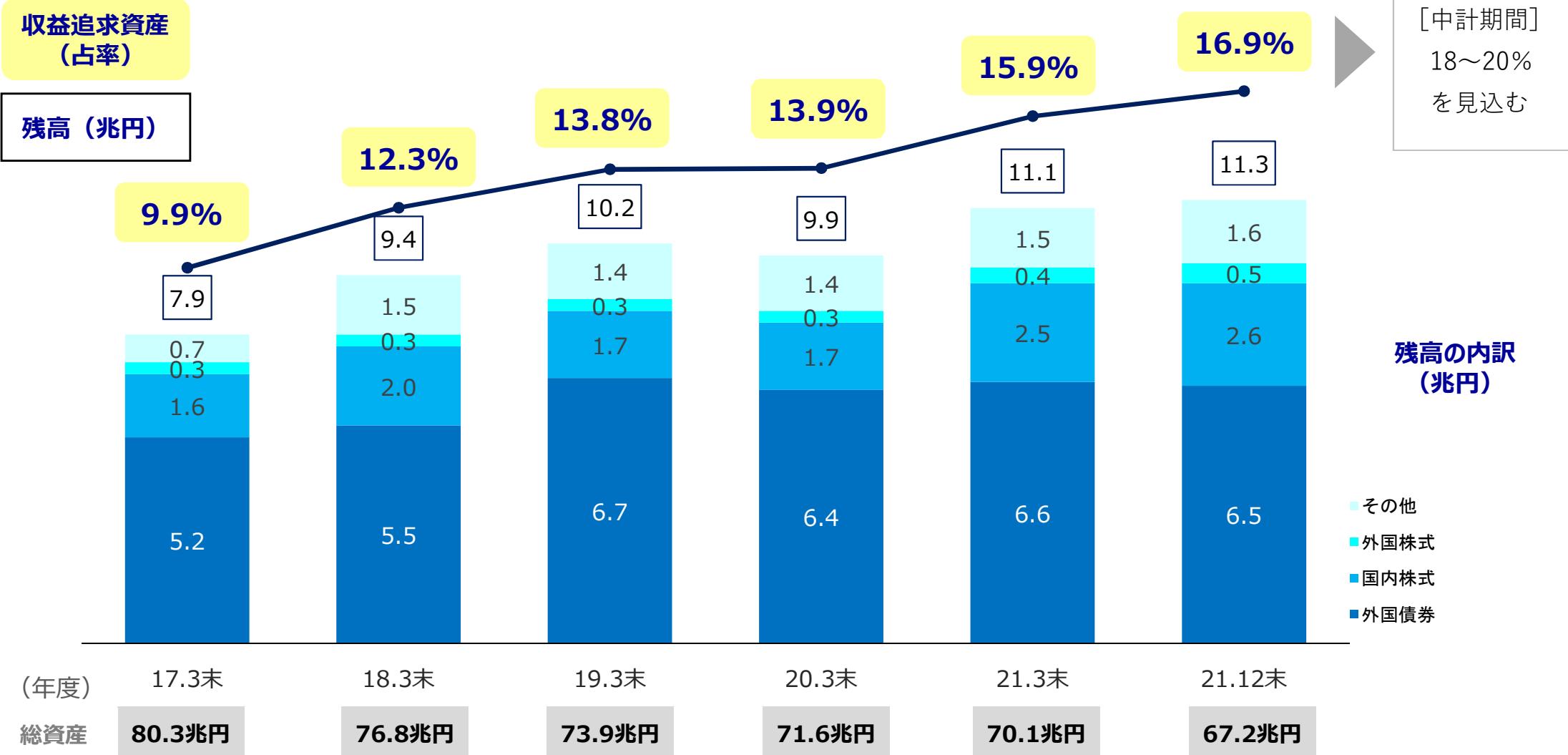


2021年度 実施項目

- お客さま本位の業務運営の徹底
- 新しいかんぽ営業体制の構築
- 商品・サービスの充実（医療特約の改定）
- 資産運用の深化・高度化

- DX/CXの取り組みを推進
- ラジオ体操の普及・効果研究
- ダイバーシティ・マネジメント
- ESG投資

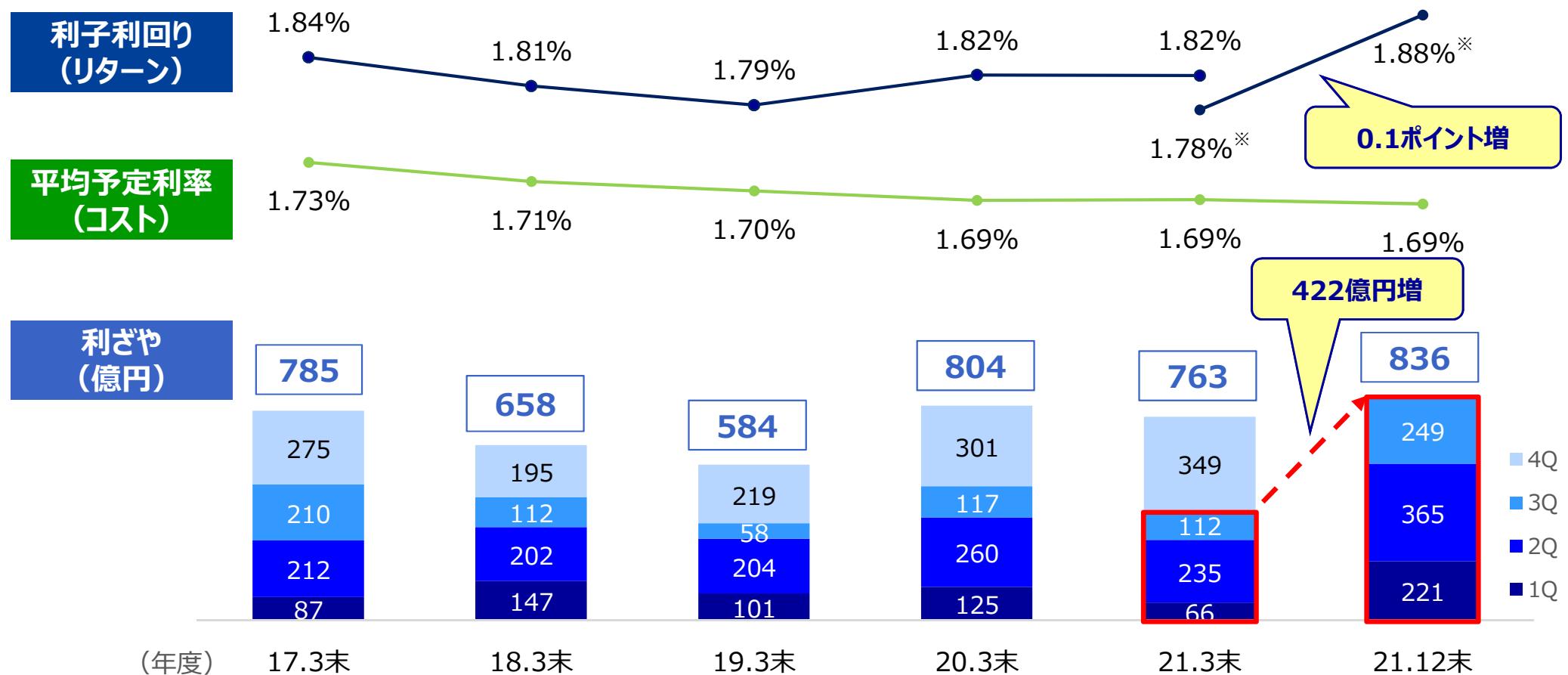
収益追求資産への投資拡大

リスク許容度の範囲で収益追求資産への投資を拡大

3. 資産運用の深化・高度化

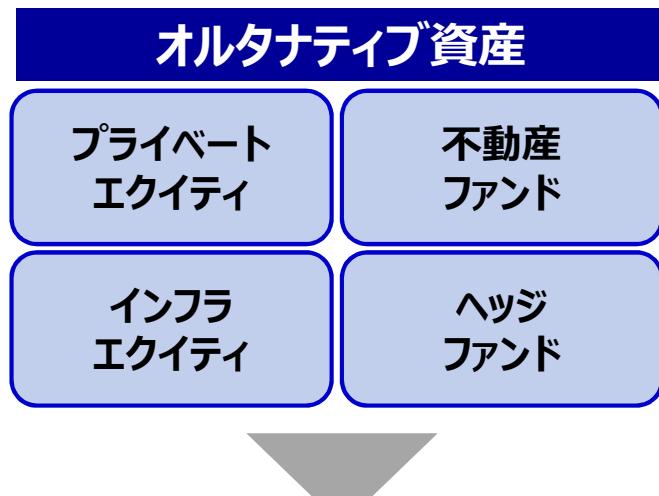
資産運用収益（順ざや）の推移

多様化した運用資産からの収益実現により
安定的な資産運用収益（順ざや）を確保

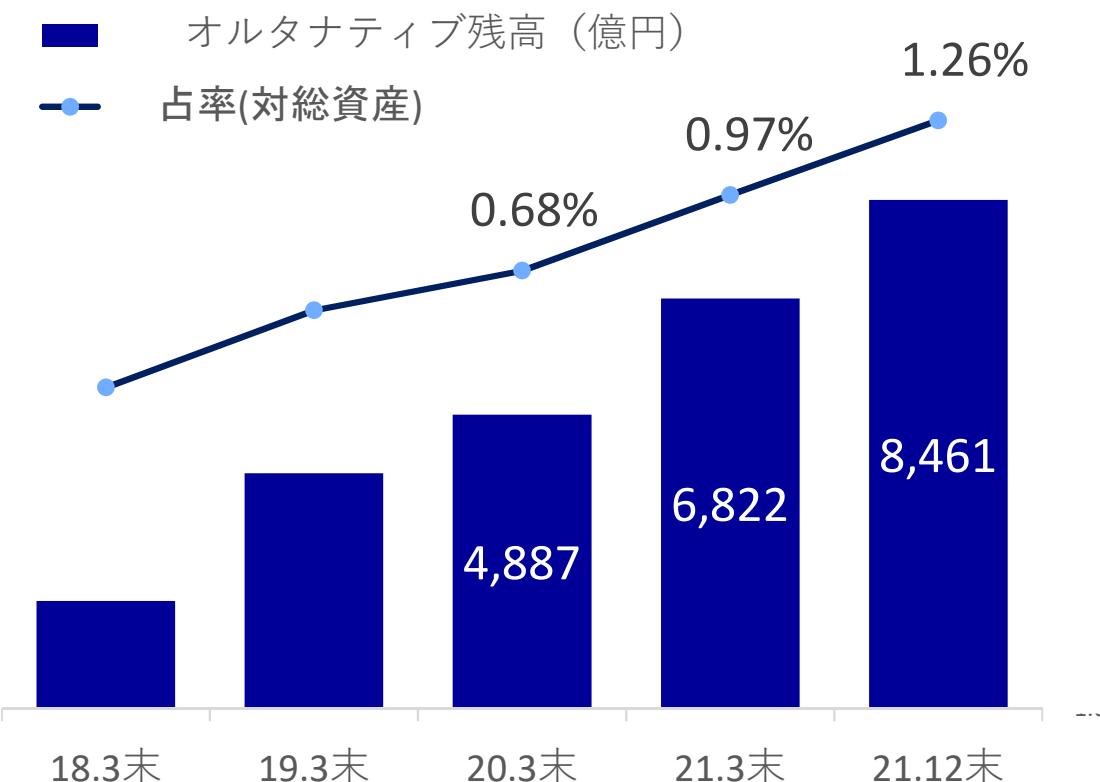


オルタナティブ投資の取組み

収益の底上げを意図し、オルタナティブ投資を段階的に拡大



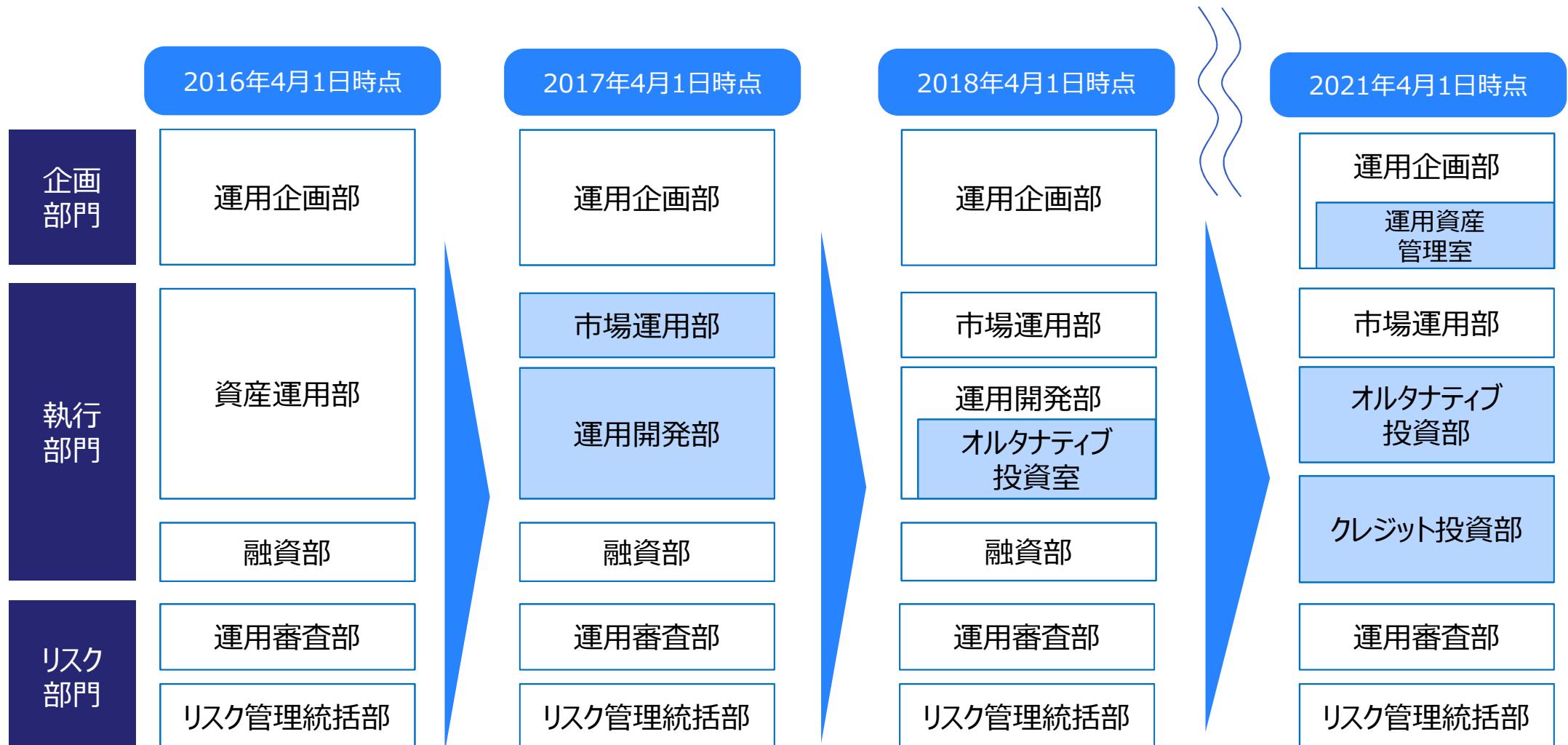
- ◆ 戰略分散・地域分散を図りながら、段階的に残高を積み上げ
- ◆ 再生可能エネルギー施設への投資やインパクト投資など、ESG投資も推進



3. 資産運用の深化・高度化

資産運用態勢の強化

資産運用の深化・高度化を支える運用態勢の強化を継続実施

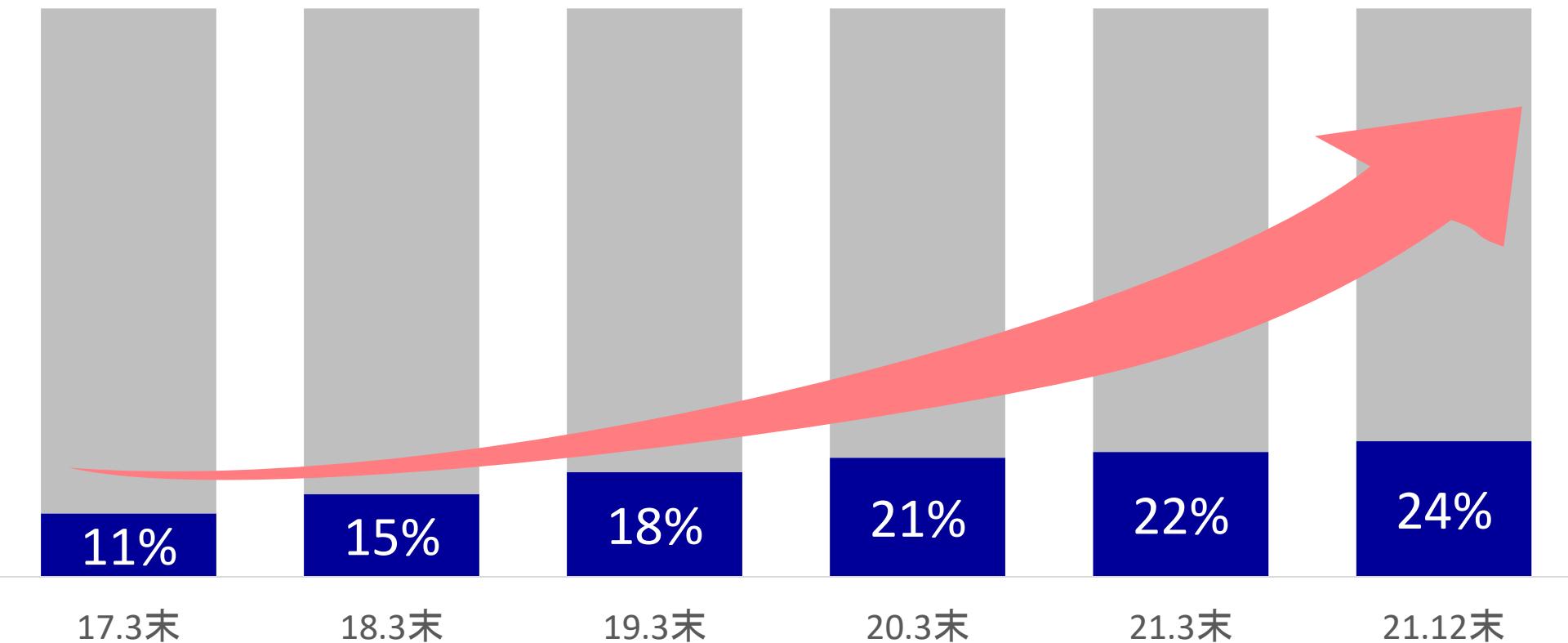


利息及び配当金等収入の推移

収益追求資産等から得られる利息・配当金の占率は増加



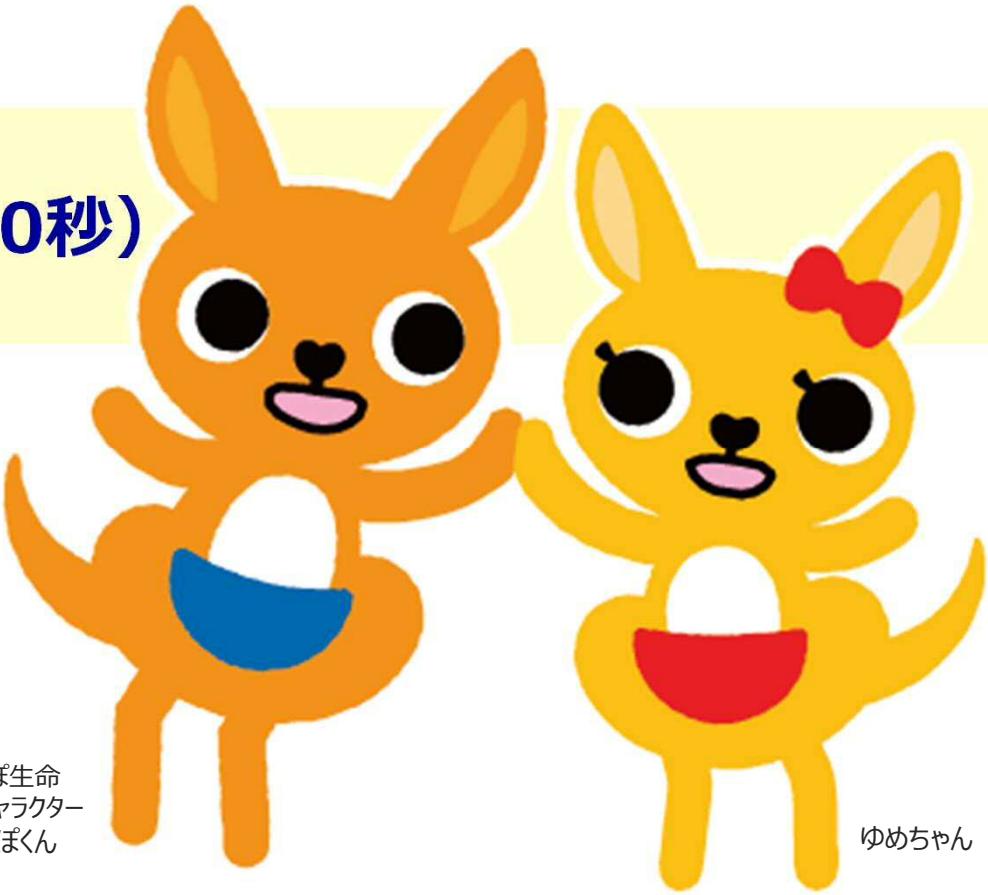
- 公社債利息・貸付利息
- 収益追求資産等の利息・配当金





新CM動画 (30秒)

かんぽ生命
企業キャラクター
かんぽくん



1. かんぽ生命の事業の特徴

2. かんぽ生命の資産運用の概要

3. 資産運用の深化・高度化

4. ESG投資の取り組み



かんぽ生命の投資における使命

いつでもそばにいる。どこにいても支える。
すべての人生を、守り続けたい。

保険会社として



将来の保険金等のお支払いに備え、お客さまからお預かりした資金を大切に運用

ユニバーサル・オーナーとして



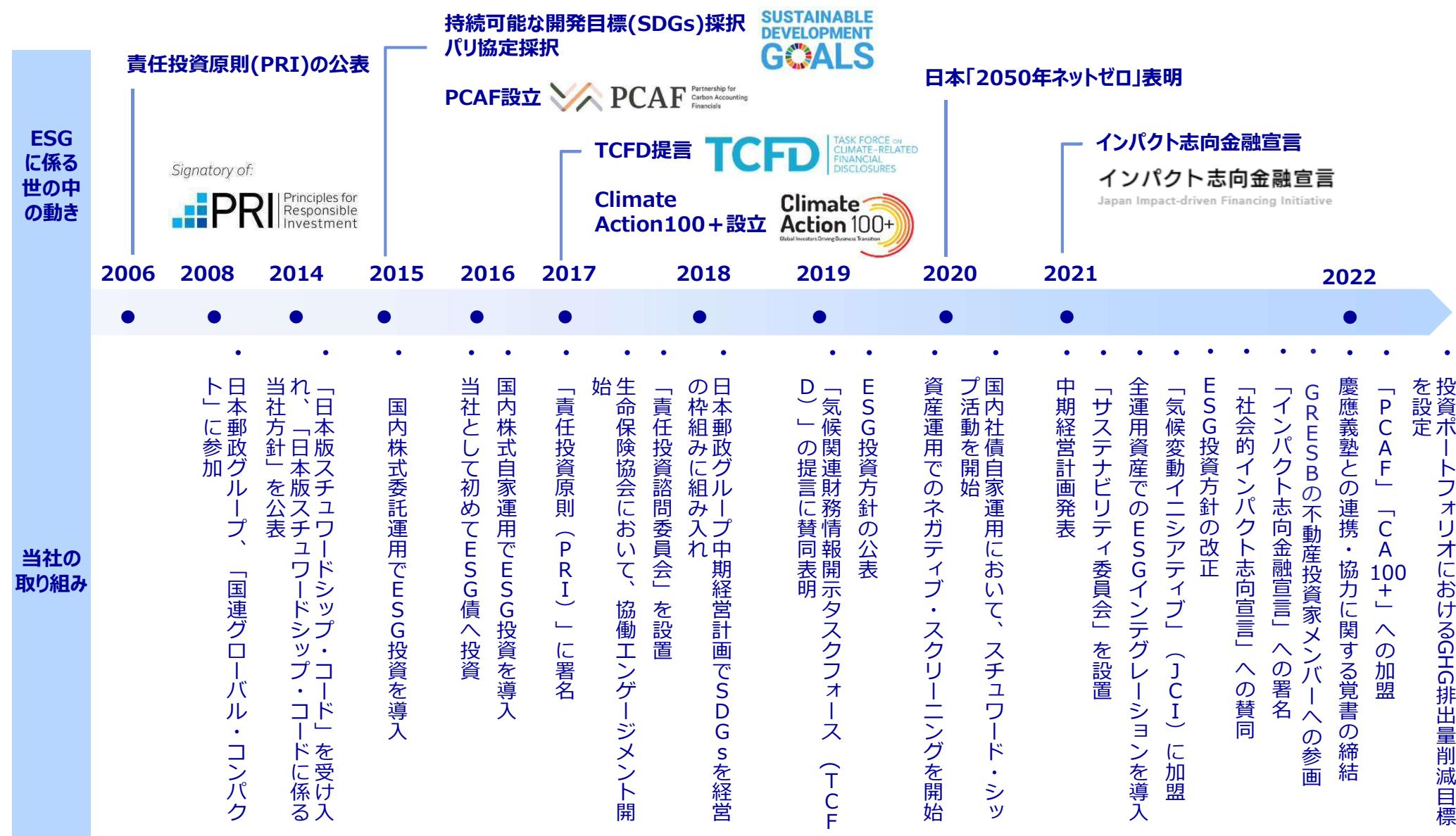
巨額の資産を持ち、幅広い資産に分散投資を行う長期投資家として経済社会全体の持続的成長に寄与する責任

上場企業として



持続的な成長、中長期的な企業価値の向上を実現

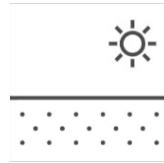
かんぽ生命のESG投資、スチュワードシップ活動に対する取り組み



なぜ「ESG」投資なのか



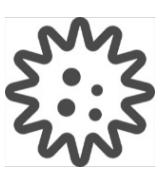
環境問題、社会問題、企業統治などの負の問題が浮上…



地球温暖化



異常気象



感染症



紛争

etc…

負の影響は持続可能な経済活動・社会活動を毀損する可能性があるため、環境・社会・ガバナンスに配慮した投資判断を行うことが必要

- ・投資先企業の価値が長期的に高まることで「α（※）」を獲得
- ・社会課題の解決による市場全体の持続的・安定的な成長

※ 期待投資収益を上回る超過収益

ESG投資

(財務情報と非財務情報（ESG）を考慮した投資)

ESG投資とは

従来の財務情報だけでなく、環境 (E), 社会 (S), ガバナンス (G)などの非財務情報も考慮した投資



ESG投資の生み出す持続可能な循環

持続可能な循環

投資家がESG投資を重視することで、リスク減、
安定した収益獲得につながる

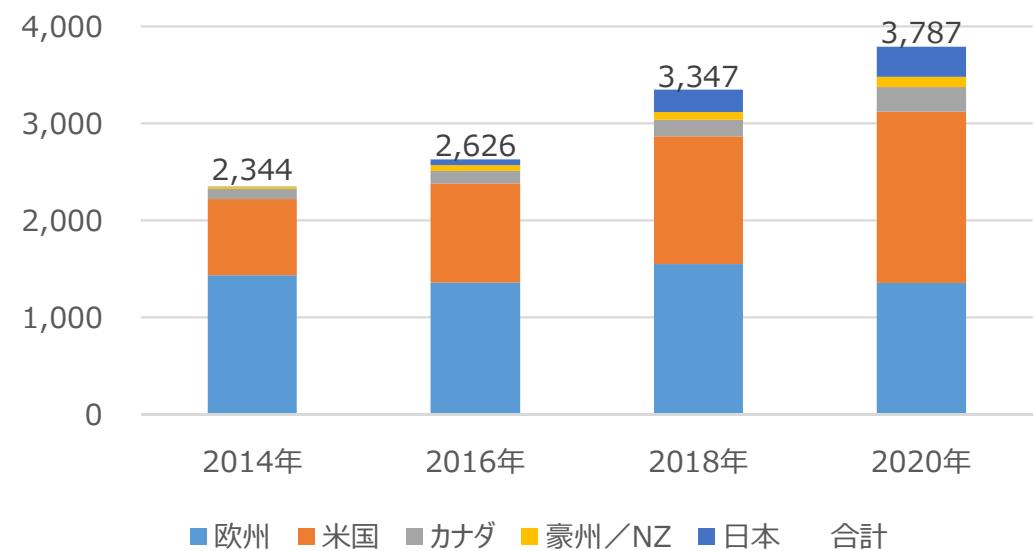


ESG投資は世界的に拡大

2020年の世界のESG投資総額は全体で約3,787兆円に達した。2018年からは13.1%、2016年からは44.2%の増加となる

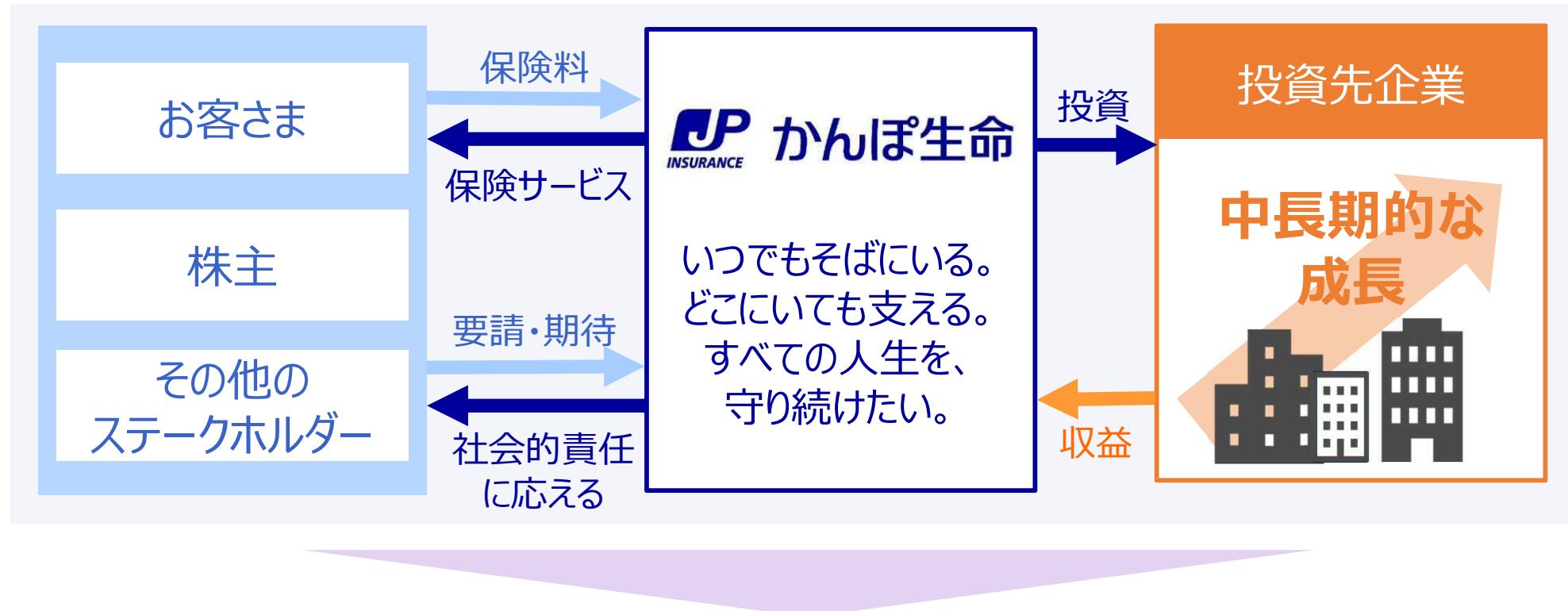
世界のESG投資残高の成長

(単位：兆円)



出典：GSIA

かんぽ生命の投資における使命



持続可能な社会（SDGs）の実現、長期的な投資成果の向上・リスク軽減



社会課題の解決への貢献を通じ、お客様とさらなる信頼関係を構築



かんぽ生命のESG投資戦略

① 投資手法

枠組み	概要
ESGインテグレーション	全資産運用の投資判断において、ESG要素を考慮
エンゲージメント（企業との対話） ・株主議決権行使	当社の重点取組みテーマを考慮し、エンゲージメント・株主議決権行使を実施
テーマ型投資・ インパクト投資	当社の重点取組みテーマを考慮し、テーマ型投資やインパクト投資を拡大
ネガティブ・スクリーニング	当社のネガティブ・スクリーニング基準に則った実施

② 重点的に取り組むテーマを選定し、かんぽらしい“あたたかさ”的な投資を実施

Well-Being向上

- 健康増進に資する施設や企業への支援
- 子ども、高齢者、障がい者等が安全・安心して暮らせる環境づくり等への支援

地域と社会の発展

- ローカルビジネスの活性化・企業誘致のための支援
- 地域コミュニティの形成への支援

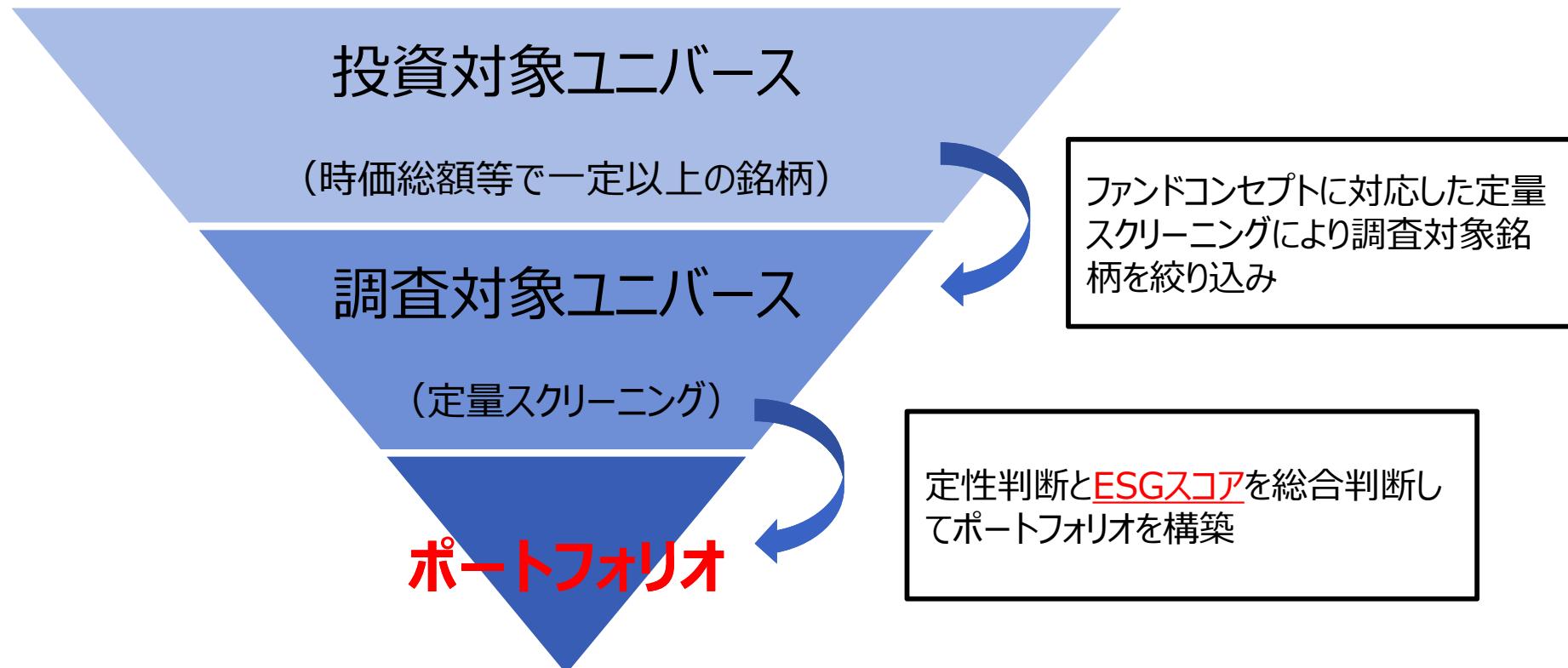
環境保護への貢献

- 再生可能エネルギーに対する支援
- G H G排出削減に資する事業や技術への支援

投資手法の例 ~インテグレーション 株式運用におけるESGスコア評価~

当社の国内株式自家運用において、2016年の運用開始当初からESG要素を考慮するとともに、ファンド運用においては「かんぽ生命独自のESGスコア」を投資判断に加えています。

■ ファンド構築プロセス（イメージ）



投資手法の例 ~インテグレーション 株式運用におけるESGスコア評価~

独自のESGスコアでは、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）の要素ごとに「将来キャッシュフロー」や「資本コスト」に影響する項目を抽出して評価し、ファンドの構築につなげています。

■ 独自のESGスコアの評価項目

環境（E）	ESGによる成長ドライバー	「ESG関連売上高」
	ESGに関するリスク	定量データによる評価（CO2排出量など）
社会（S）	ESGによる成長ドライバー	「ESG関連売上高」
	ESGに関するリスク	定量データによる評価（女性管理職比率など） 定性評価（Well-being、地域と社会の発展）
ガバナンス（G）	ESGに関するリスク	定量データによる評価（社外取締役比率など） 定性判断（ガバナンス、対話姿勢）

投資手法の例 ~インテグレーション 株式運用におけるESGスコア評価~

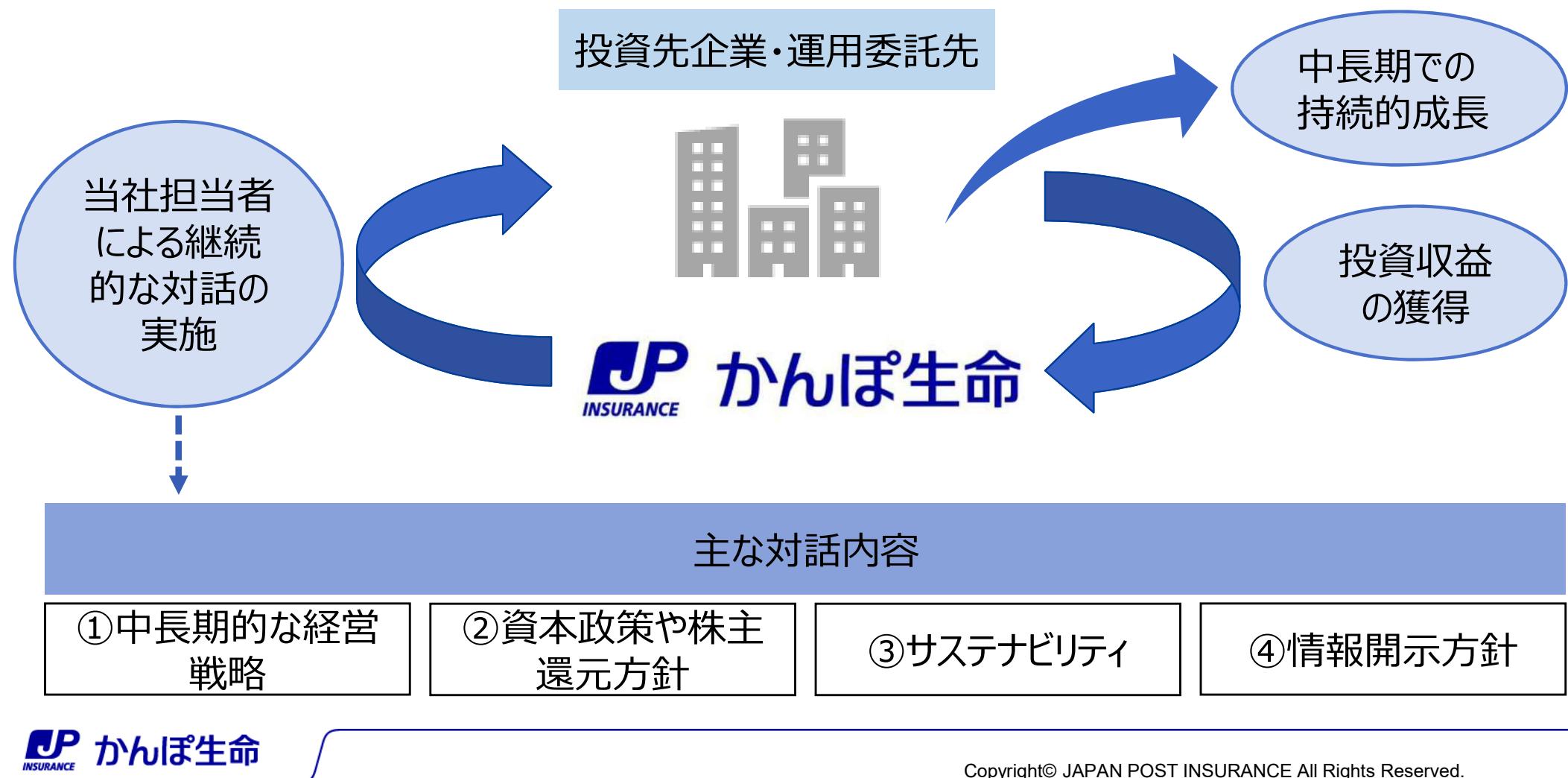
独自のESGスコアを用いたファンドの一つである「成長株ファンド（※）」のリターンはベンチマークとするTOPIX500をアウトパフォームしています。

※ 財務情報（相対的に高いROE（自己資本利益率）の持続性）を踏まえながら、SDGsの目標達成や課題解決に資する企業の技術力や事業基盤の「業績への貢献度」や「成長性」を評価し、ESGを成長機会として捉えている企業に投資するファンド



投資手法の例 ~エンゲージメント 投資先企業との対話~

当社は、投資先企業や運用委託先とESGに関わる課題の解決や経営戦略等について、「目的を持った対話（エンゲージメント）」を行い、対話を通じて企業行動の変革を促し、持続可能な社会の実現と運用パフォーマンスの向上に努めています。



ESG投資の実績 Well-being向上①

重点取組テーマ

Well-being向上



テーマ型債券の購入



新型コロナウイルス感染症ワクチンの購入・配布等を支援 投資金額：約450億円

国際機関が発行した新型コロナウイルス感染症対策を目的としたテーマ型債券を購入しました。



2020年5月

- ・新型コロナウイルス感染症に経済的打撃を受けた中南米・カリブ地域の国々に対する支援
- ・新型コロナウイルス感染症対策など、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」を含む持続可能な開発支援

2021年3月

- ・国際的な枠組み「COVAX」を通じた新型コロナウイルス・ワクチンの購入・配布の支援

ESG投資の実績 Well-being向上②

Well-Being向上
とアカデミアを核とした
資金循環の促進を目指した
慶應義塾との覚書の締結

重点取組テーマ

Well-being向上



アカデミアとの
連携・協力



報道関係者各位

PRESS RELEASE

2022年1月21日
株式会社 かんぽ生命保険

学校法人慶應義塾との ESG 投資の推進に向けた連携・協力に関する覚書の締結
～Well-Being 向上とアカデミアを核とした資金循環の促進～

株式会社かんぽ生命保険（東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 千田哲也、以下「かんぽ生命」）は、Well-Being 向上とアカデミアを核とした資金循環の促進に向けた連携・協力をを行うため、学校法人慶應義塾（東京都港区、理事長 伊藤公平、以下「慶應義塾」）と 2022 年 1 月 21 日に覚書を締結いたしました。

慶應義塾は、「すべての人の健康で幸福な人生の達成」に寄与するという理念のもと、医療やデータサイエンスなどの知識や技術の高度化に取り組んでおり、互いに描く未来社会のビジョンに共感したことから、覚書の締結に至りました。

今後、かんぽ生命と慶應義塾は、インパクト投資領域を中心として、慶應義塾の研究成果を活用したベンチャー企業を対象とした資金供給に関する検討など、相互に連携・協力し、共に社会課題解決とイノベーション創出の実現に努めてまいります。

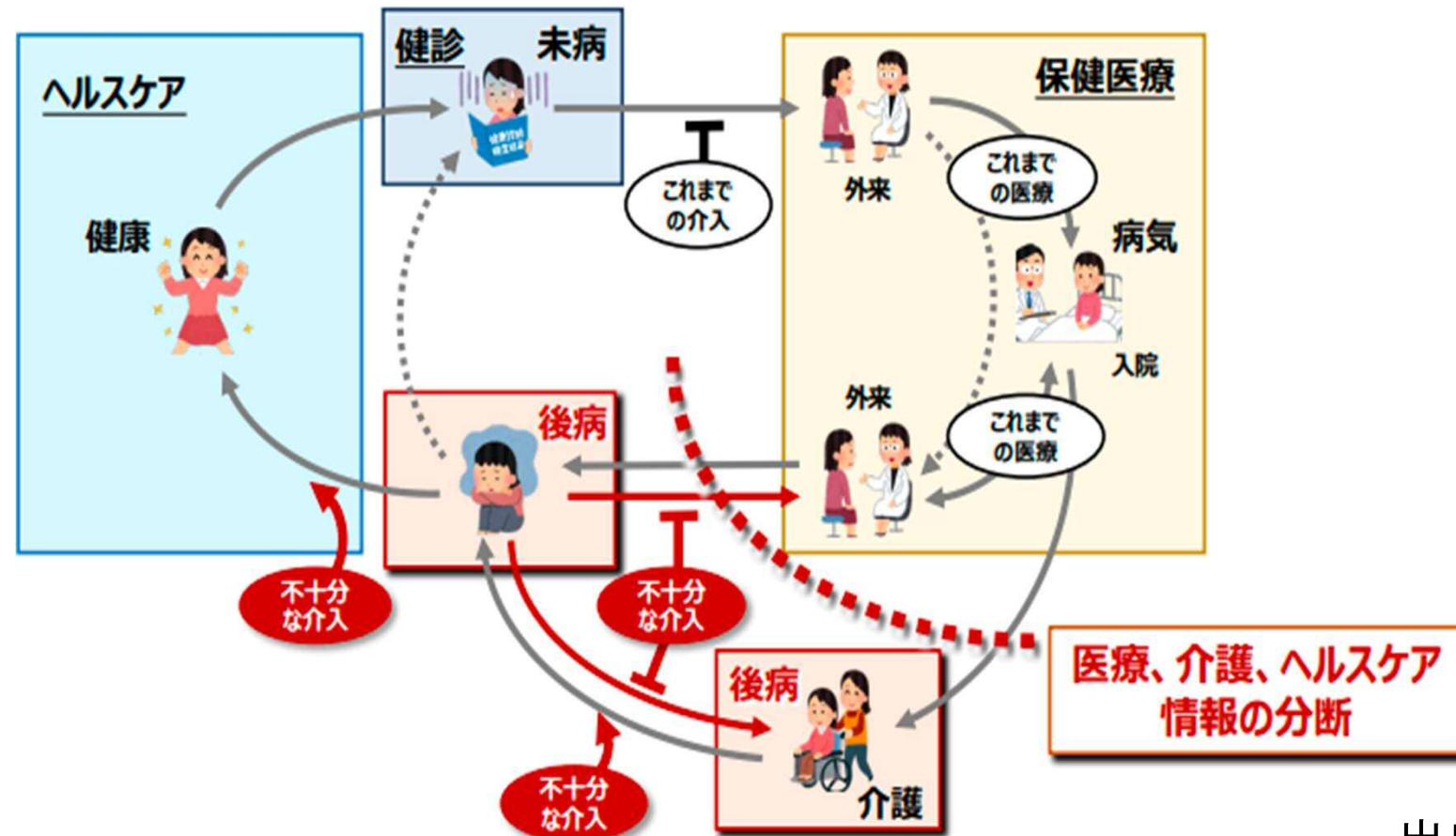
かんぽ生命は、すべてのステークホルダーの皆さまに対する社会的責任を果たすという観点から、全運用資産に対し ESG を考慮し、持続可能な社会の実現と長期的な投資成果の向上・リスク低減を目指して、ESG 投資に取り組んでおります。

今後も、かんぽ生命らしい“あたたかさ”的な感じられる投資を通じて、広く SDGs の目標達成や社会課題の解決に貢献してまいります。

(以下 略)

ESG投資の実績 Well-being向上②

アカデミア（慶應義塾）の持つ医療やデータサイエンスなどの知識や技術の高度化を活かし、その分野への投資を行うことを目的に、相互に連携・協力し、社会課題の解決とイノベーション創出の実現につなげます。



出典：慶應義塾

ESG投資の実績 環境保護への貢献



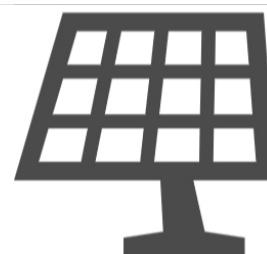
重点取組テーマ

環境保護への貢献



再エネ事業への投資

太陽光発電、バイオマス発電など
環境に配慮した自然エネルギー発電事業への投資



中期経営計画において、2025年までに、投融資先再生可能エネルギー施設の総発電出力150万KWを目指しています。2021年12月末現在、72.7万KW（目標に対し48.4%）進捗しています。

投融資先再生可能エネルギー施設
の総発電出力

2021年12月末		発電出力 ^{※1}
国内	エクイティ	20.3
	デット	19.1
海外	エクイティ	24.0
	デット	9.3
合計		72.7

[中計期間]
150万KW^{※2}を目指す

※1 単位：万KW、当社持ち分換算後

※2 投融資先再生可能エネルギー施設から出力される電力に限る

数字で見るかんぽ生命 ~投融資先再生可能エネルギー施設の総発電出量 地域別内訳~

海外
371億円
(33.3万KW)

国内
930億円
(39.4万KW)

※ 2021年12月末時点

※ 当社の発電出力72.7万kWは約25.4万世帯分
の電力需要に相当

九州・沖縄
48.3億円
(3.9万KW)

中国 198.4億円
(6.0万KW)

近畿 199.7億円
(7.9万KW)

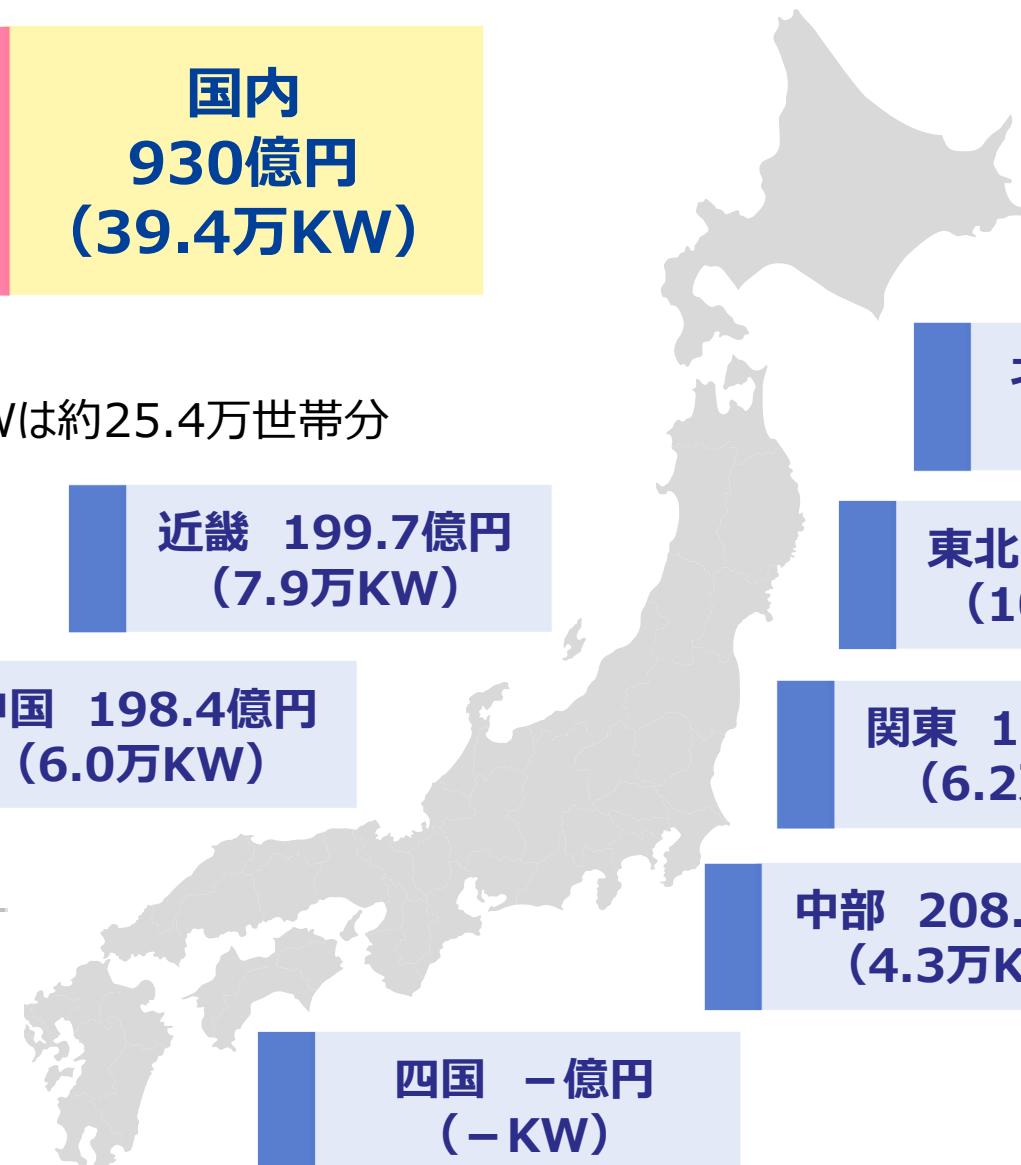
関東 115.0億円
(6.2万KW)

中部 208.8億円
(4.3万KW)

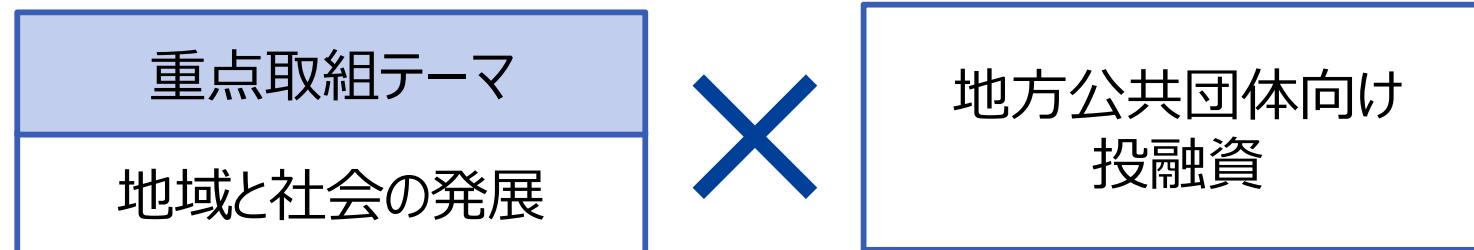
北海道 6.9億円
(0.5万KW)

東北 153.8億円
(10.7万KW)

四国 -億円
(-KW)



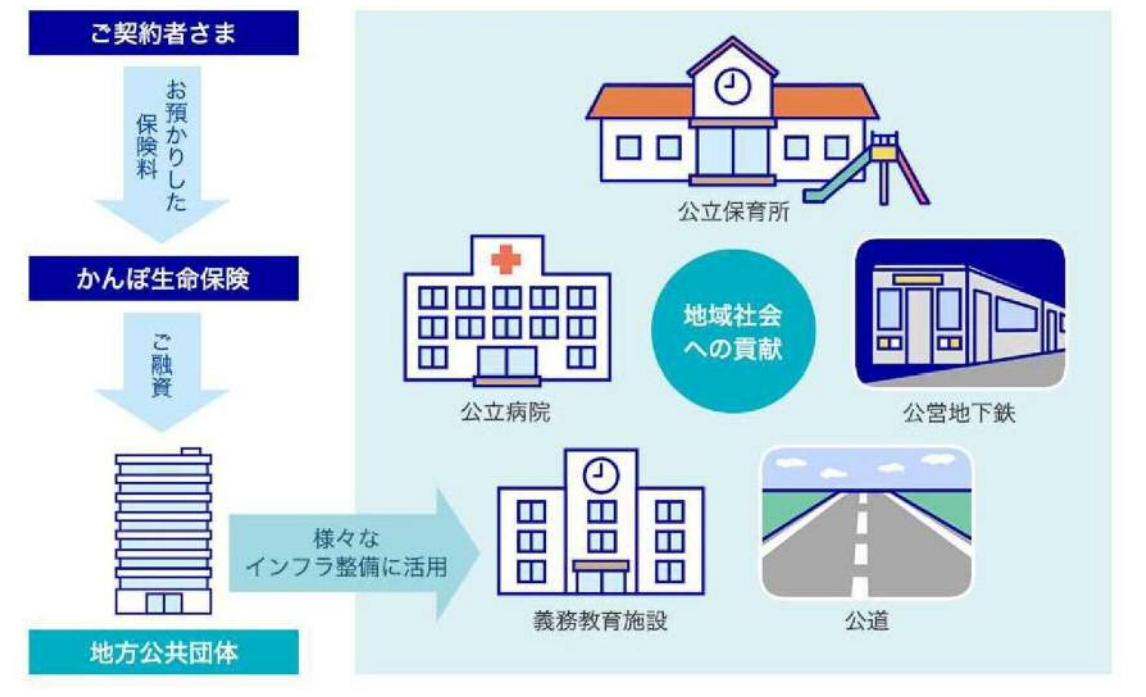
ESG投資の実績 地域と社会の発展



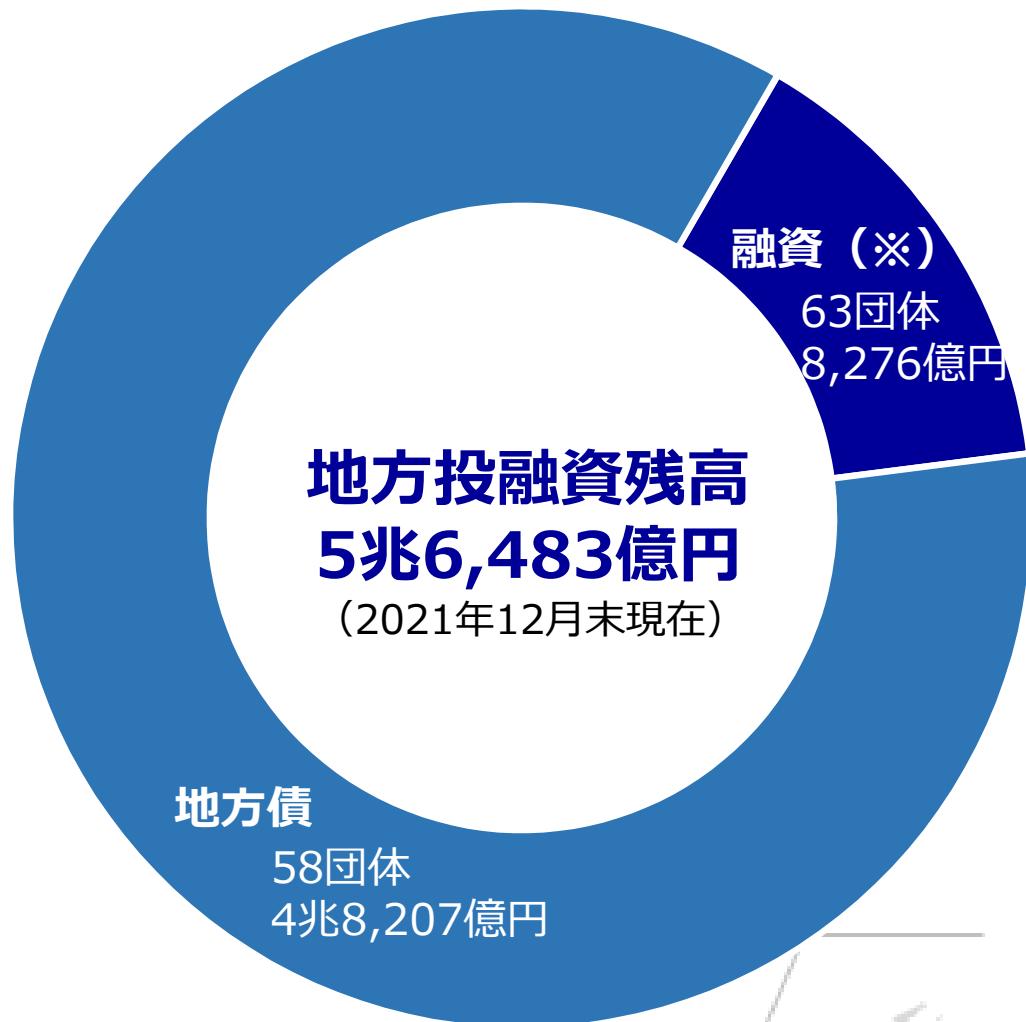
100年以上の歴史を持つ、地方公共団体への投融資

当社は安全性と収益性の観点から、地方公共団体への投融資に長年、取り組んでまいりました。

この投融資を通じ、インフラ整備・発展に貢献し、地域・社会の成長を支えています。



数字で見るかんぽ生命 ~地方公共団体向け投融資~



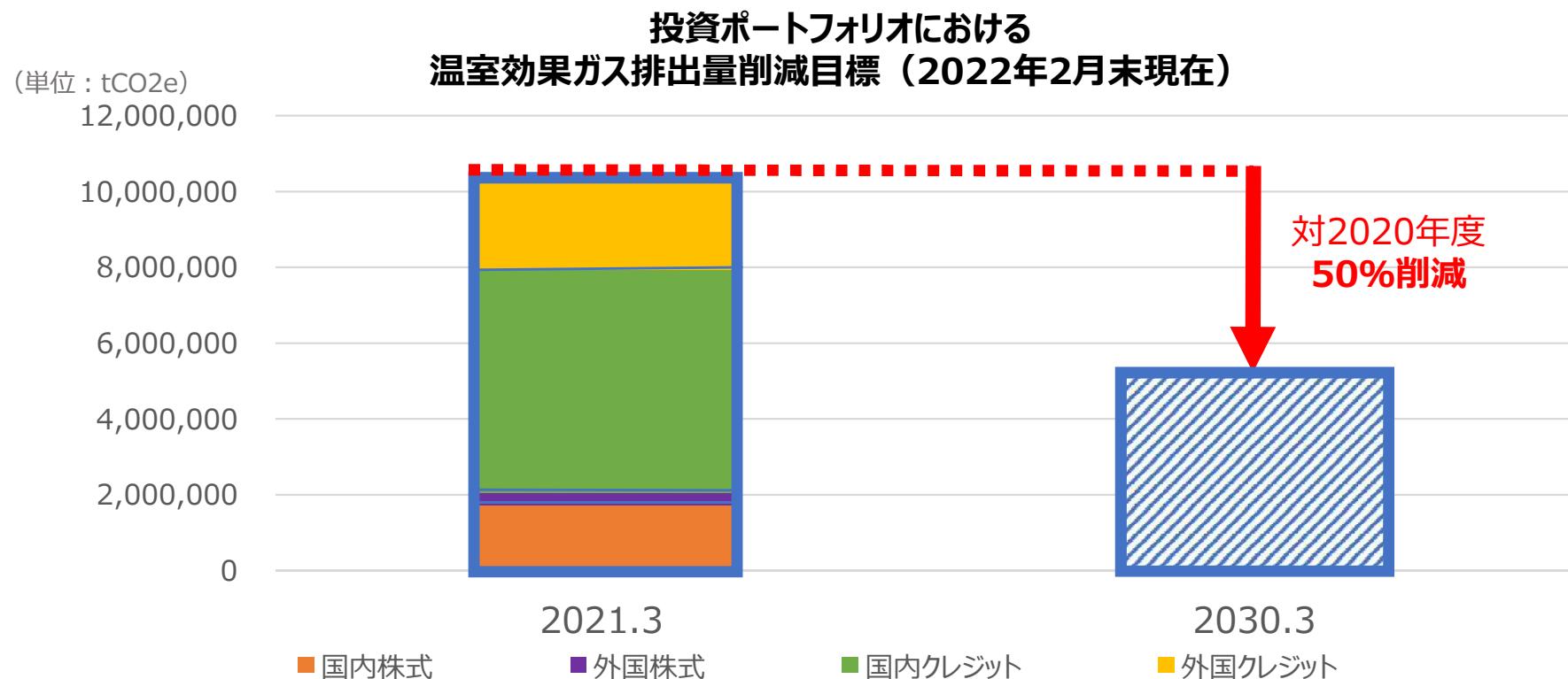
投資ポートフォリオにおけるGHG排出量削減目標の設定

当社は機関投資家として、ポートフォリオの気候変動リスクを管理するため、2021年3月末を基準日として、投資ポートフォリオのうち4資産（※1）を対象に、温室効果ガス排出量を計測しました。

また、2021年3月末時点での投資ポートフォリオの温室効果ガス排出量を基準（※2）とし、中間目標として2030年3月末までに投資ポートフォリオによる温室効果ガス排出量を50%削減、2050年にネットゼロ達成を目標とすることとしています。

※1：自家運用及び委託運用における国内株式、外国株式、国内クレジット（事業会社等への融資を含む。）、外国クレジット。なお、未上場株式、プロジェクトファイナンス、REIT、資産担保証券等を除く

※2：今後、計測対象資産の拡大等により、基準値は変動する可能性あり



4. ESG投資の取り組み

国内外の投資関連イニシアチブへの賛同・加盟

ESG投資、また持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進するために、同じ目的や問題意識を共有する国内外の投資関連イニシアチブに賛同・加盟しています。

気候変動関連



企業が行う財務報告において気候変動要因をどのように取り扱うべきかの枠組みについて、2017年6月に提言を行った気候関連財務情報開示タスクフォース



GHG排出量の多い企業に協働エンゲージメントを行うことで排出削減を促進することを目指す、機関投資家のイニシアチブ



脱炭素社会の実現を目指すネットワークである気候変動イニシアチブ



投融資のGHG排出量の測定手法の開発と普及を目指す国際的なイニシアチブ

インパクト投資関連



社会課題解決のために、日本の金融機関が協働してインパクト志金融の発展を目指し、設立されたイニシアチブ



社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ
Social Impact Management Initiative

日本全体としてインパクト投資普及のため、「社会的インパクト・マネジメント」の普及を目指す



IRサイトのご案内

JP かんぽ生命

すべてを、お客さまのために。

コーポレートサイトへ English (Investor Relations)

株主・投資家のみなさまへ 文字サイズ 小 中 大 キーワードを入力してください 検索

IRニュース 経営方針 財務情報 IR資料 個人投資家のみなさまへ 株式情報

トップメッセージ 楽情ハイライト English Page

株価情報
2021年12月09日 15:00 東証第1部: 7181
現在値 1,796 前日比 -30

チャートを見る

注目ページ
1. IR資料
2. 株主還元
3. IRニュース

IR関連ページ
よくあるご質問
ディスクロージャーポリシー
電子公告
お問い合わせ
IRメール配信
サイトマップ

IRニュース RSS

2021年12月02日 更新情報 株主通信(中間) (7716KB)
2021年11月26日 法定・適時開示 四半期報告書 第16期第2四半期(2021年7月1日-2021年9月30日) (558KB)
2021年11月25日 更新情報 2022年3月期中期決算・経営方針説明会の動画配信URLを掲載しました
2021年11月25日 更新情報 2022年3月期中期決算・経営方針説明会資料を (2298KB) 掲載しました
2021年11月12日 更新情報 2022年3月期中期決算電話会議の音声配信URLを掲載しました
2021年11月12日 法定・適時開示 2022年3月期第2四半期(中間期)決算短信 (日本基準) (連結) (315KB)
2021年11月12日 法定・適時開示 2021年度第2四半期(中間)決算のお知らせ (723KB)
一覧へ

最新IR資料
2022年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結) (315KB)
四半期報告書 第16期第2四半期(2021年7月1日-2021年9月30日) (558KB)

JP かんぽ生命

かんぽ生命IRサイト (株主・投資家のみなさまへ)

経営方針や決算関係資料、株式情報をわかりやすく掲載しております。

(<https://www.jp-life.japanpost.jp/IR/index.html>)



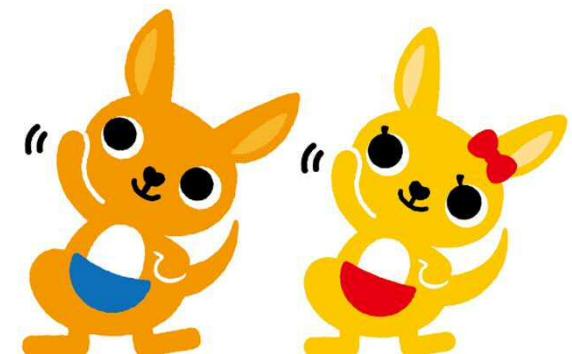
ぜひ、ご覧ください。

IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方に、最新の適時開示情報等、当社のIRに関する情報を無料で配信しております。



参考資料



会社紹介

商号	株式会社かんぽ生命保険
事業開始	2007年 10月 1日
本社所在地	東京都千代田区大手町二丁目 3番 1号
代表者	取締役兼代表執行役社長 千田 哲也
資本金	5,000億円
総資産額（連結）	70兆 1,729億円 (2021年3月末)
従業員数（連結）	8,252名 (2021年3月末)
主な事業所	エリア本部：13 支店：82



取締役兼代表執行役社長

せんだ てつや
千田 哲也

【生年月日：1960年4月22日】

主要業績の推移

(億円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
保険料等収入	50,418	42,364	39,599	32,455	26,979
経常利益	2,797	3,092	2,648	2,866	3,457
契約者配当準備金繰入額	1,526	1,177	1,118	1,092	654
当期純利益	885	1,044	1,204	1,506	1,661
純資産	18,532	20,031	21,351	19,283	28,414
総資産	803,367	768,312	739,050	716,647	701,729
自己資本利益率	4.7 %	5.4 %	5.8 %	7.4 %	7.0 %
株主配当	360	408	432	427	427
配当性向	40.6 %	39.0%	35.8 %	28.4 %	25.7 %
【参考】基礎利益（単体）	3,900	3,861	3,771	4,006	4,219

主要な販売商品

簡易・小口な商品性

■ 簡易な手続き

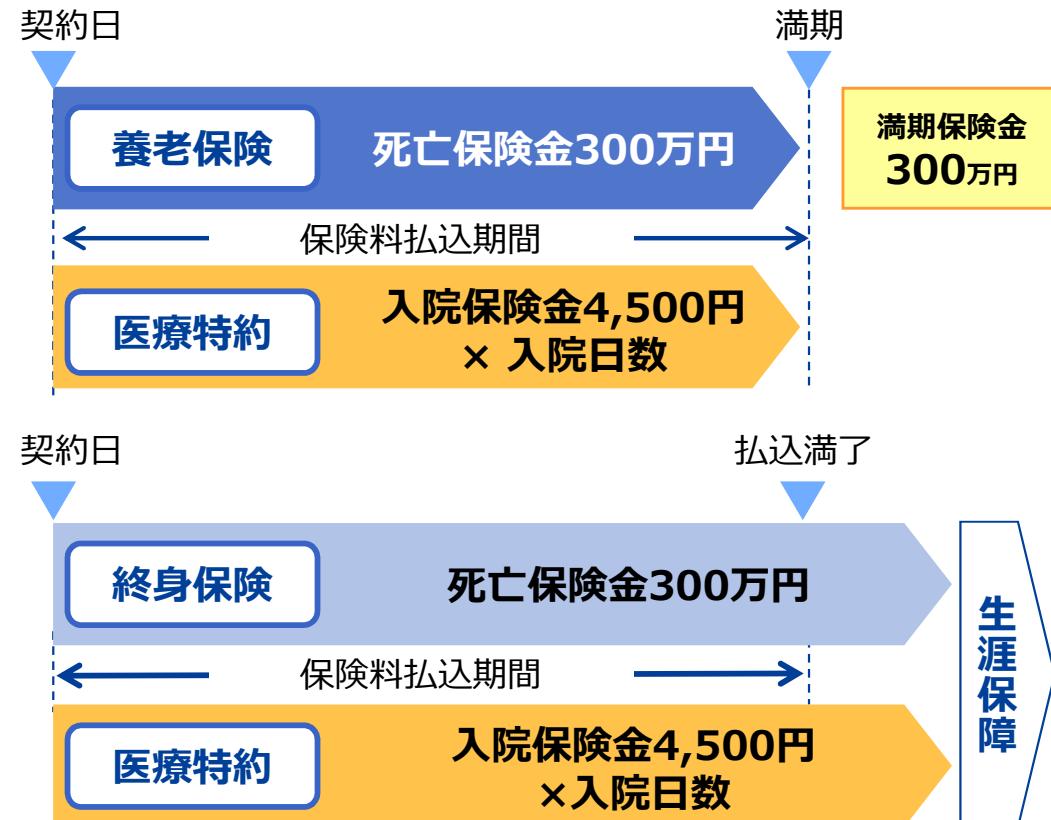
- 医師による診断書が不要（無診査）
- 病歴等の告知のみでお申し込み可能（告知書扱）
- 職業による加入制限なし

■ 小口な商品

- 加入限度額：原則1,000万円
(加入後4年経過後は累計2,000万円(20~55歳))
- 新契約1件あたり平均保険金額：約312万円※

※2020年度新契約

養老保険・終身保険に医療特約を付加した販売例



当社株価推移



※1 株価収益率（PER）＝直近株価÷1株当たり当期純利益（2021年度予想：365.49円）

※2 株価純資産倍率（PBR）＝直近株価÷1株当たり純資産（2021年12月末：6,656.68円）

※3 配当利回り＝1株当たり配当金（2021年度予想：90円）÷直近株価

<免責事項>

本資料は、当社およびその連結子会社の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、日本郵政グループ各社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想と異なる可能性があることにご留意ください。